

# 令和5年度シラバス

## (Ⅱコース1年)

日本大学東北高等学校

# 目 次

学校シラバス	… 1
Ⅱコース1学年	… 2～ 4
現代の国語	… 5～ 7
言語文化	… 8～11
歴史総合	… 12～14
公共	… 15～17
数学Ⅰ・A	… 18～21
物理基礎	… 22～24
化学基礎	… 25～27
生物基礎	… 28～30
体育	… 31～36
保健	… 37～39
音楽Ⅰ	… 40～41
美術Ⅰ	… 42～43
書道Ⅰ	… 44～45
英語コミュニケーションⅠ	… 46～49
論理・表現Ⅰ	… 50～53
総合的な探究の時間	… 54～56

## 学校シラバス

### 校訓

- 1 忠恕の心：まごころを持って相手の心をおもいやること。
- 2 自主創造：自主的に学び、考え、広く世界的な視野を持つと共に、新しい自分、心豊かな自分を創造すること。
- 3 真剣力行：強い意志を持ち、目的に向かって全力を尽くすこと。

### 本年度の努力目標

- 1 奉仕と思いやりの心を持つ      2 新校舎を大切に学ぼう      3 対策をして楽しもう

取り組み項目	具体的な内容
キャリア教育, 教科指導を計画的に推進し, 学力の定着と向上を図り, 生徒の進路目標を達成する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 シラバスを作成し, 生徒・保護者へ提示する。</li> <li>2 進路ガイダンス等の各種説明会を通じて進路情報を提示し, 幅広いキャリアビジョンと確かな学力を身に付けた上で進路を決定する意識を構築する。</li> <li>3 卒業前の3年生に, 学外からの出前講座, 教員による校内講座を行い, 幅広い教養を身に付ける。</li> <li>4 日本大学工学部との高大連携事業を展開する。</li> </ol>
国際理解教育を推進し, グローバル化社会に対応できる力を身に付ける。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ネイティブ教員によるTT授業で, 英語の4技能の育成を図る。</li> <li>2 課外講座で, 英会話講座を実施して語学力の育成を図る。</li> <li>3 語学力育成とともに国際理解を深めることを目的に, ケンブリッジ大学・オーストラリア海外語学研修を実施する。(令和4年度は派遣中止)</li> </ol>
自主的・主体的な学習への取り組みを通して, 社会に貢献できる人材を育成する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 自学室・自習室・サポート室を活用し, 生徒が自ら学ぶ姿勢を育成する。</li> <li>2 ICTを利用したアクティブ・ラーニング授業を実践する。</li> <li>3 基礎学力到達度テスト対策に, 春期特別指導を実施する。</li> <li>4 大学進学に向けて, 各種模擬試験の活用と夏期進学補習の充実を図る。</li> <li>5 図書館を利用して, 生徒が自ら問題解決の糸口を見つけ出す姿勢を育成する。</li> </ol>
学校行事や課外活動を通して, 人間的成長を促し, 円満な人格形成を図る。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 修学旅行を通して, 団体行動や平和について学習する。</li> <li>2 部活動を通して, 心身を鍛え自主性や協調性を育成する。</li> <li>3 文化祭などの学校行事を通して, 自主性や創造性, 協働性を身に付けるとともに, 仲間との達成感を共有する。</li> <li>4 芸術鑑賞会を通して, 広く芸術に触れ, 親しむ心を育成する。</li> <li>5 身だしなみ向上週間の活動を通じて, 自律心を育成する。</li> </ol>
学校の安全管理を徹底するとともに, 安全教育を推進する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学校安全計画、防災マニュアル（安全管理マニュアル・衛生管理マニュアル・防火管理マニュアル）を実践する。</li> <li>2 火災や地震を想定した避難訓練、および救急救命講習会や避難器具使用講習会等を実施する。</li> <li>3 地歴公民や保健体育の授業、ホームルーム活動を通じて, 安全や健康について学習する。</li> <li>4 交通安全教室、スマホ安全教室等を実施し、生徒の危機管理意識を育成する。</li> </ol>

◇年間行事計画

II コース 1 学年

指導内容・行事		指導のねらい	
4月	II コース 1 年生オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・愛校心の涵養・生活習慣の確立</li> <li>・進路意識の高揚</li> <li>・生徒間、教員との信頼関係の構築</li> </ul>	
	校内オリエンテーション		
	二者面談		
		基礎学力到達度テスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力の定着、自己分析</li> </ul>
		進路希望調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己理解と目標設定</li> </ul>
		登校指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的生活習慣の確立</li> </ul>
		iPad 配布・説明会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報リテラシーの向上</li> </ul>
		シェイクアウト訓練	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危機管理意識の醸成</li> </ul>
		学級懇談会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員—保護者の信頼関係の構築</li> </ul>
5月	校内体育大会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健やかな心身の育成</li> <li>・良好な人間関係の構築</li> </ul>	
	保護者参観授業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者への情報公開</li> <li>・家庭との連携強化</li> </ul>	
	身だしなみ向上週間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規範意識の高揚</li> <li>・自己管理能力の育成</li> </ul>	
	1 学期中間試験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的学習習慣の確立</li> <li>・既習事項の定着度の測定</li> </ul>	
	英検	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力の定着</li> <li>・資格取得によるキャリアアップ</li> </ul>	
6月	身だしなみ向上週間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規範意識の高揚</li> <li>・自己管理能力の育成</li> </ul>	
	数検、漢検	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力の定着</li> <li>・資格取得によるキャリアアップ</li> </ul>	
	1 学期期末試験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的学習習慣の確立</li> <li>・既習事項の定着度の測定</li> </ul>	
	性の講演会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己を守るための情報提供</li> <li>・予防啓発</li> </ul>	
7月	アカシヤ祭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己理解を深める</li> <li>・創造力、表現力の伸長</li> <li>・他者と協働する力を育む</li> </ul>	
	ベネッセ総合学力テスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力の定着度を測る</li> <li>・弱点、苦手分野の把握</li> <li>・学習計画の立案、課題設定</li> </ul>	
	三者面談	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭との連携</li> <li>・信頼関係の構築</li> <li>・現状の理解と目標の設定</li> </ul>	
	夏期進学講座	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力の伸長</li> <li>・学習習慣の確立</li> </ul>	

	探究活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・論理的思考力、表現力の伸長</li> <li>・地域社会への理解を深める</li> </ul>
8月	夏期進学講座	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力の伸長</li> <li>・学習習慣の確立</li> </ul>
	大学探究プログラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路意識の高揚を図る</li> <li>・自己理解を深める</li> </ul>
	全統模試	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力の定着度を測る</li> <li>・強み、弱みの把握</li> <li>・学習計画の立案</li> </ul>
	8時間耐久自学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習習慣の確立</li> <li>・集中力、忍耐力を育む</li> </ul>
9月	成果テスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力の定着</li> </ul>
	進路希望調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路希望の確認</li> </ul>
	服装頭髪指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規範意識を高める</li> </ul>
	スタディサポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力の定着度を測る</li> <li>・強み、弱みの把握</li> <li>・学習計画の立案</li> </ul>
	保護者参観授業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者への情報公開</li> <li>・家庭との連携強化</li> </ul>
	秋の交通安全指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全な登下校の啓発</li> </ul>
10月	2学期中間試験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主的、計画的学習への取り組み</li> <li>・学習活動の成果を測る</li> </ul>
	身だしなみ向上週間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規範意識の高揚</li> <li>・自己管理能力の育成</li> </ul>
	芸術鑑賞会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化、芸術への造詣を深める</li> </ul>
	英検、漢検	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力の定着</li> <li>・資格取得によるキャリアアップ</li> </ul>
	文理選択・コース変更説明会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路意識の高揚を図る</li> <li>・保護者との連携</li> </ul>
11月	身だしなみ向上週間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規範意識の高揚</li> <li>・自己管理能力の育成</li> </ul>
	ベネッセ総合学力テスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力の定着度を測る</li> <li>・弱点、苦手分野の把握</li> <li>・学習計画の立案、課題設定</li> </ul>
	二者面談	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文理選択に関する理解を深める</li> <li>・疑問点や不安を解消する</li> </ul>
12月	2学期期末試験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主的、計画的学習への取り組み</li> <li>・学習活動の成果を測る</li> </ul>
	冬期進学講座	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力の伸長</li> <li>・学習習慣の確立</li> </ul>
1月	成果テスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力の定着</li> <li>・学習活動の成果を測る</li> </ul>

	服装頭髪指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規範意識を高める</li> </ul>
	ベネッセ総合学力テスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力の定着度を測る</li> <li>・弱点、苦手分野の把握</li> <li>・学習計画の立案、課題設定</li> </ul>
	英検、漢検	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力の定着</li> <li>・資格取得によるキャリアアップ</li> </ul>
2月	身だしなみ向上週間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規範意識の高揚</li> <li>・自己管理能力の育成</li> </ul>
	探求活動報告会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現力、プレゼン力の育成</li> </ul>
	Welcome program 準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画力の伸長</li> <li>・学年を越えた交流を深める</li> </ul>
	数検	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資格取得によるキャリアアップ</li> </ul>
3月	3学期末試験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主的、計画的学習への取り組み</li> <li>・学習活動の成果を測る</li> </ul>
	春季特別授業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力の伸長</li> <li>・学習習慣の確立</li> </ul>
	スタディサポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力の定着度を測る</li> <li>・強み、弱みの把握</li> <li>・学習計画の立案</li> </ul>

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
現代の国語	3	1	Ⅱコース

教科書名 高等学校 現代の国語 (数研)  
 副教材名 三訂版 プロGRESS 現代文総演習 基本編 (尚文)  
現代文記述問題攻略ノート 習得編 (数研)  
現代文練習帳 ことのは (いいずな)

## 1 科目目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。

(2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

## 2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	(1)ガイダンス 授業の進め方  (2)『現代文記述問題攻略ノート』 新聞記事と資料を読み比べる①  (3)「対比の構造」(教科書)	(1) ①予習・復習の仕方や授業の基本的な進め方について理解する  (2) ①新傾向の問題に対応した記述力の基礎を身に付ける ②文章と図表資料などを関連付けながら読み解く力を身に付ける
	5	【一学期中間試験】  (1)『現代文記述問題攻略ノート』 新聞記事と資料を読み比べる②③	(3) ①主張と論拠など情報と情報との関係について理解する
	6	(2)「具体と抽象」(教科書)  (3)「表現の実践」(教科書)	(1) ①新傾向の問題に対応した記述力の基礎を身に付ける ②文章と図表資料などを関連付けながら読み解く力を身に付ける  (2)

	7	【一学期期末試験】	①言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解する (3) ①話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫する
【課題・提出物】 授業ノート・週課題			
【1学期の評価方法】 定期試験の素点平均×80%+平常点(授業態度・提出物・小テスト)×20%			
	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	(1)『現代文記述問題攻略ノート』 いろいろな資料を読み比べる①  (2)「一般論と主張」(教科書)	(1) ①新傾向の問題に対応した記述力の基礎を身に付ける ②文章と図表資料などを関連付けながら読み解く力を身に付ける
	10	【二学期中間試験】	(2)
	11	(1)『現代文記述問題攻略ノート』 いろいろな資料を読み比べる②③  (2)「比較する」(教科書)	①文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解する ②推論の仕方を理解して使う
	12	(3)「視野を広げる」(教科書)  【二学期期末試験】	(1) ①新傾向の問題に対応した記述力の基礎を身に付ける ②文章と図表資料などを関連付けながら読み解く力を身に付ける (2)・(3) ①実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする ②比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解して使う
【課題・提出物】 授業ノート・週課題・読書感想文			
【2学期の評価方法】 定期試験の素点平均×80%+平常点(授業態度・提出物・小テスト)×20%			



	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	(1)『現代文記述問題攻略ノート』 評論文と資料を読み比べる①②③	(1) ①新傾向の問題に対応した記述力の基礎を身に付ける
	2	(2)「思考を深める」(教科書)  (3)「実用の文章」(教科書)	②文章と図表資料などを関連付けながら読み解く力を身に付ける
	3	【三学期期末試験】	(2) ①実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深める  (3) ①情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使う
【課題・提出物】 授業ノート・週課題			
【3学期の評価方法】 定期試験の素点×80%+平常点(授業態度・提出物・小テスト)×20%			
【年間の学習状況の評価方法】 年間の定期試験の素点平均×80%+年間の平常点(授業態度・提出物・小テスト)×20%			

### 3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。	定期試験・小テスト・提出物
思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	授業態度・定期試験・発表・提出物
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。	授業態度・小テスト・発表・提出物

### 4 学習サポート（事前・事後学習等について）

予習・復習を前提として授業を行います。受け身ではなく主体的に学ぶ姿勢を大切にしてください。読解においては、文章構造に着目し、文や段落相互の関係、資料や図表との関係を正しく理解することを心掛けましょう。

科目	単位数	対象学年	対象クラス
言語文化	3	1	Ⅱコース

教科書名 高等学校 言語文化 (数研)  
副教材名 三訂版 プロGRESS 現代文総演習 基本編 (尚文)  
三訂版 プロGRESS 古典総演習 基本編 (尚文)  
新明説総合古典文法 (尚文) 精選漢文 (尚文)  
基本の整理 精選漢文基本練習ノート (尚文)  
古典攻略マストアイテム76 (桐原) 解法古文単語350 (数研)  
古典文法 助動詞徹底ワーク (尚文)

### 1 科目目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。

(2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

### 2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	(1)ガイダンス ①授業の進め方 ②週課題, 小テスト	(1) ①予習・復習の仕方や授業の基本的な進め方について理解する ②週課題や小テストの内容や提出方法について理解する
	5	(2)古典文法入門  (3)用言(動詞)  (4)小説(ワークブック)  【一学期中間試験】	(2)・(3) ①現代語と古典語の違いについて理解する ②歴史的仮名遣い・品詞・活用の種類と活用形等について理解する  (4) 小説の基本的な読み方について理解する

	6	(1)用言(動詞・形容詞・形容動詞)  (2)助動詞	(1)・(2) ①用言の活用の種類と活用表等について理解する ②助動詞の文法的意味と活用表, 接続の仕方等について理解する
	7	(3)小説(ワークブック)  【一学期期末試験】	(3) ①小説の基本的な読み方について理解する
【課題・提出物】 授業ノート・週課題			
【1学期の評価方法】 定期試験の素点平均×80%+平常点(授業態度・提出物・小テスト)×20%			
	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	(1)助動詞	(1) ①助動詞の文法的意味と活用表, 接続の仕方等について理解する
	10	(2)「古文の世界を楽しむ」(教科書)  (3)「受け継がれる古文」(教科書)  【二学期中間試験】	(2) ①古典の世界に親しむために, 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり, 古典特有の表現などについて理解する  (3) ①文章の意味は, 文脈の中で形成されることを理解する ②作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ, 内容の解釈を深める
	11	(1)「現代にも生きる教え」(教科書)  (2)「和歌による心の交流」(教科書)  (3)漢文入門(教科書)  (4)「詩歌の系譜」(教科書)	(1)・(2) ①文章の種類を踏まえて, 内容や構成, 展開などについて叙述を基に的確に捉える  (3) ①我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解する
	12	【二学期期末試験】	(4) ①我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し, それらの文化的背景について理解を深め, 文章の中で使うことを通して, 語感を磨き語彙を豊かにする

【課題・提出物】 授業ノート・週課題・創作(俳句・短歌・詩・小説)			
【2学期の評価方法】 定期試験の素点平均×80%+平常点(授業態度・提出物・小テスト)×20%			
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	(1)「仮名日記文学の原点」(教科書)  (2)「故事と成語」(教科書)	(1) ①作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつ
	2	(3)「漢詩のことば」(教科書)  (4)「受け継がれる漢文」(教科書)	(2)・(3) ①古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解する
	3	【三学期中間試験】	(4) ①我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする
【課題・提出物】 授業ノート・週課題			
【3学期の評価方法】 定期試験の素点×80%+平常点(授業態度・提出物・小テスト)×20%			
【年間の学習状況の評価方法】 年間の定期試験の素点平均×80%+年間の平常点(授業態度・提出物・小テスト)×20%			

### 3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。	定期試験・小テスト・提出物
思考・判断・表現	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	授業態度・定期試験・発表・提出物
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。	授業態度・小テスト・発表・提出物

### 4 学習サポート（事前・事後学習等について）

予習・復習を前提として授業を行います。古典の文章読解においては、文法事項の確認・現代語訳を各自で行い、授業に臨んでください。

古文においては、文法事項を理解することはもちろんですが、それをいかに用いて文章を読むことができるかが大切です。

漢文においては、漢字の意味や句形を理解するとともに、文法構造に着目して学びましょう。

近現代の文学においては、作品の成立した背景を知るとともに、文章における表現を適切に読み取ることができるよう心掛けてください。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
歴史総合	2	1 学年	Ⅱコース

教科書名 歴史総合 近代から現代へ (山川出版社)

副教材名 山川歴史総合用語解説 (山川出版社)

## 1 科目目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を学び、課題を追求・解決をすることにより、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会で主体的に生きることができる資質、能力を身に着ける。

## 2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	ガイダンス 帝国主義と列強の展開	・第2次産業革命の概要をまとめ、それがいかに世界を変化させていったのかを理解する。
	5	<b>【探求：なぜユダヤ人は差別されたのだろうか】</b> 世界分割と列強の対立	・ドイツとイギリスの対立を軸として、国際的に複雑な同盟・協商関係が形成されていった過程を考察する。
	6	日露戦争とその影響 1 学期中間試験 辛亥革命 第1次世界大戦 ロシア革命 パリ講和会議と国際連盟の成立	・総力戦による社会の変化を理解する。 ・ロシアの内戦と日本のシベリア出兵の意図を理解する。 ・パリ講和会議とヴェルサイユ条約の内容を整理し、国際連盟の限界を理解する。
	7	1920年代の西ヨーロッパ諸国 1 学期期末試験	・第1次世界大戦後に民族運動が活発化した要因を理解し、その影響を考察する。
【課題・提出物】・授業ノート・プリントの点検			
【1学期の評価方法】			
① 定期試験の成績 (80%) ・知識・理解の確認とともに、歴史的な思考力を問う論述問題も出題する。			
② 学習態度等の平常点 ・授業時などの学習過程で、観点別評価内容の3項目について評価する。 ・授業ノート・プリントの状況の評価する。			
	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	アジア・アフリカの民族運動 大量消費社会と市民生活の変容 社会労働運動の進展と大衆の政治参加	・アメリカで大量消費社会が成立した要因をふまえ、大量消費社会の特徴を理解する。 ・恐慌が世界に波及した要因を追求し、その後の世界に与えた影響を理解する。
	10	2 学期中間試験 世界恐慌の発生と各国の対応	・ファシズム体制の特徴をまとめ、国内外への

	11	ファシズムの台頭 日本の恐慌と満州 日中戦争と国内外の動き 第2次世界大戦と太平洋戦争	影響を考察する。 ・日中戦争がおこった背景を理解し、その後の国際社会に与えた影響を考察する。 ・第2次世界大戦がおこった背景を理解し、その後の政治の推移を考察する。
	12	<b>【探求：ヨーロッパで始まった2次大戦にアメリカと日本はどのように関与したか】</b> 2学期期末試験 新たな国際秩序と冷戦の始まり	・イスラエルの成立にともなうパレスチナ地域の動向について考察する。 ・日本がどのように国際社会に復帰したかを考察する。
<b>【課題・提出物】・授業ノート・プリントの点検</b>			
<b>【2学期の評価方法】</b> ① 定期試験の成績（80%） ・理解の確認とともに、歴史的な思考力を問う論述問題も出題する。 ② 学習態度等の平常点 ・授業時などの学習過程で、観点別評価内容の3項目について評価する。 ・授業ノート・プリントの状況进行评估する。			
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	アジア諸地域の独立 集団防衛体制と核開発 米ソ両大国と平和共存	西側陣営が各地に集団防衛機構を構築した目的を理解する。 ・ソ連の雪解けと西側への影響を理解し、東ヨーロッパ世界の動揺や中ソ問題の悪化を理解する。
	2	西ヨーロッパの経済復興 <b>【探求：中東戦争について、その経緯をまとめてみよう】</b> 第三世界の連携と試練 核戦争の恐怖から軍縮へ 冷戦構造のゆらぎ世界経済の転換	・国際社会で第三世界が形成された背景と、その活動について理解する。 ・ベトナム戦争の発生とその経過について理解する。
	3	3学期期末試験 冷戦構造のゆらぎ	・1970年代の世界経済転換の背景を理解する。 ・ゴルバチョフの新思考外交によって冷戦が終結し、東欧革命が発生した経過を理解する。
<b>【課題・提出物】・授業ノートの点検</b>			
<b>【3学期の評価方法】</b> ① 定期試験の成績（80%） ・知識・理解の確認とともに、歴史的な思考力を問う論述問題も出題する。 ② 学習態度等の平常点 ・授業時などの学習過程で、観点別評価内容の3項目について評価する。 ・授業ノート・プリントの状況进行评估する。			
<b>【年間の学習状況の評価方法】</b> 年間の成績は、学年末に各学期の成績を総合して評価する。			

### 3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内容を正確に理解し、教科書・用語集を読みこなすことができる。</li> <li>・近現代の歴史の因果関係を、世界とその中の日本を相互的視野から解き明かすことができる。</li> </ul>	授業の様子 授業ノート 定期テスト 探求レポート
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史に見られる課題を把握し、解決を視野に入れて考察するとともに、これを効果的に説明することができる。</li> </ul>	授業の様子 授業ノート 定期テスト
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界史に興味・関心を持ち、主体的に授業に参加し、積極的に課題を追求・解決することができる。</li> <li>・多角的・多面的な考察と深い理解力を持ち、自国や他国の文化を尊重することができる。</li> </ul>	授業の様子 授業ノート 探求レポート

### 4 学習サポート（事前・事後学習等について）

- ・随時、学習相談を実施していますので、理解の難しい所があれば、早めに解決しましょう。
- ・歴史に興味・関心を持って欲しいです。授業中にお勧めの本を紹介しますので、是非読んでみて下さい。



科目	単位数	対象学年	対象クラス
公共	2	1 学年	Ⅱコース

教科書名 高等学校 公共 ( 清水書院 )

副教材名 高等学校 公共ワークノート ( 清水書院 ) テーマ別資料 公共 2023 (とうほう)

### 1 科目目標

- 「公共」とは、私たちが何をどう見るか、どう考えるかで現れてくる空間であり、事柄である。このように「公共」を考えれば、これまで、もっぱら「公共」という観念を独占してきた政府や地方自治体、国際機関等の活動を、私たちの日常生活と関わらせて、とらえ直していく力を養う。
- 思想は歴史的背景と前時代の課題を受けて成立するものであり、先哲の思想を学ぶことで人間とは何か、自分はどうかあるべきかを深く探求する。
- 人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めることにより、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに自ら人間としての在り方、生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を身につける。

### 2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	第1編 公共の扉をひらく	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 青年期とは、人生の中でどのように位置づけられているかの特徴を知り、この時期に求められている課題について考え理解する。</li> <li>・ 哲学とはどのようなものであり、またどのように展開していったのか理解する。</li> <li>・ 宗教とは何だろうか。その教えと私たちの価値観とのつながりや違いについて考え理解する。</li> <li>・ 公共を形づくっている様々な要素は近代の西ヨーロッパに原型がある。西洋近代の始まりは、どのようなものであったか理解する。</li> </ul>
		第1章 公共的な空間をつくる私たち	
		1 私たちの人生と社会	
		2 青年期の心理と課題	
	5	3 哲学の始源と発展	
		4 一神教の教え	
		5 東洋の宗教と思想 (1) (仏教)	
		6 東洋の宗教と思想 (2) (儒教)	
	6	7 日本の風土と神仏への信仰	
		8 江戸時代の学問と近代化への歩み	
		1 学期中間試験	
		第2章 公共的な空間における人間	
7	1 義務論と功利主義		
	第3章 公共的な空間における基本原理		
	1 近代的な人間像の誕生 (1)		
	2 近代的な人間像の誕生 (2)		
	3 国際社会と人間性 (1)		
	4 国際社会と人間性 (2)		
5 国際社会と人間性 (3)			
6 公共性の復権と他者についての思考			
1 学期期末試験			
【課題・提出物】 定期試験後に授業ノート・ワークノート提出			
【1 学期の評価方法】			
① 定期試験の成績 教科書の範囲内の重要語句や語句を理解しているか出題する。			
② 学習課題、および学習態度の平常点 (20%以内)			

	月	学習内容	学習のねらい		
2 学 期	9	第2編 基本的人権の尊重と法 第1章 民主政治の原理 1 近代国家と立憲主義 2 日本国憲法の成立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本国憲法はどのような経緯で成立したか理解する。</li> <li>・日本国憲法の三原理は相互にどのような関連を持つのか理解する。</li> <li>・平和主義がどのように具体化されているか理解する。</li> <li>・人間が尊重されて生きていくために、憲法はどのような自由・平等等を保障しているか理解する。</li> <li>・政治に参加する権利として、憲法はどのような権利を保障しているか理解する。</li> </ul>		
		第2章 人権の尊重と日本国憲法 1 日本国憲法の三原理と人権保障 2 平和主義と国際社会 3 平等権 4 自由権 5 社会権 6 参政権の保障と国務請求権 7 新しい人権 8 グローバル化と国際人権 2学期中間試験			
	10	第3編 現代の民主政治と社会参画 第1章 民主政治の成立と危機 1 自由民主主義の成立と危機 2 現代の自由民主主義と課題 3 世論の形成と民主社会			
				4 政治参加と主権者（有権者） 5 選挙と政党 第2章 日本の政治機構 1 国会の役割としくみ 2 内閣と行政機関 3 裁判所の役割としくみ 4 市民社会と司法参加 5 地方自治と住民の生活 2学期期末試験	
	11	12		<ul style="list-style-type: none"> <li>・国会が国権の最高機関であると憲法に規定されているが、実際には地位が低下していること、国会中心の政治を展開するために必要なことを考察する。</li> <li>・日本国憲法における議院内閣制の意義や、内閣と内閣総理大臣の権限について理解する。</li> <li>・裁判制度については、三審制のしくみや最高裁判所の地位と権限を理解し、裁判員制度についての理解を深める。</li> </ul>	
					<p>【2学期の評価方法】</p> <p>①定期試験の成績 教科書の範囲内の重要語句や語句を理解しているか出題する。</p> <p>②学習課題、および学習態度の平常点（20%以内）</p>
		月		学習内容	学習のねらい
	3 学 期	1		第4編 現代の経済社会と国民生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済をかたちづくる3つの部門の役割と機能について考察する。</li> <li>・市場機構によって解決できない問題など、具体例を通して理解する。</li> </ul>
		2		第1章 私たちと経済活動	
		3		1 私たちと経済 2 仕事と社会 3 国民経済とGDP	

	<p>第2章 経済社会のしくみと役割</p> <p>1 社会のしくみとしての市場</p> <p>2 市場の機能</p> <p>3 市場の限界</p> <p>4 金融とそのはたらき</p> <p>5 財政とそのはたらき</p> <p>6 現代の企業</p> <p>7 労働問題</p> <p>8 社会保障の役割</p> <p>9 少子高齢化と財政の維持可能性</p> <p>3学期期末試験</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済指標としての国民所得やGDP、および国民生活の豊かさを支えるフローとストックの意味を理解する。</li> <li>・金融に関する基礎知識及び、しくみを理解する。</li> <li>・マネーサプライと金融機関の意義を理解する。</li> <li>・財政のしくみや租税についての基礎知識を理解する。</li> <li>・資本主義経済のしくみとその特徴を理解する。</li> <li>・資本主義経済の発展と変容を、その矛盾を克服する試みとして登場した社会主義経済と比較しながら理解を深める。</li> </ul>
<p>【課題・提出物】 定期試験後に授業ノート・ワークノート提出【3学期の評価方法】</p> <p>①定期試験の成績 教科書の範囲内の重要語句や語句を理解しているか出題する。</p> <p>②学習課題、および学習態度の平常点（20%以内）</p>		

【年間の学習状況の評価方法】

○総合評価は、学期末ごとに行う。総合成績には平常点が含まれる。

○平常点は以下を踏まえて、20%以内とする。

①授業に対する意欲と関心 ②課題等への取り組み（宿題・レポート等）

③年数回のノート提出（板書事項・配布プリントの確認）

3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	社会的資質の獲得のために必要な知識や技能を身に付けるとともに、自己実現や現代社会における諸課題に対する理解を深めることができるようにしている。	○授業の様子 ○授業ノート ○定期試験
思考・判断・表現	知識・技能をもとに、社会との関わりの中で他者と伝え合う力や、自分の考えを広げたり深めたりする表現力を身に付け、偏見を除き、公平・公正な立場から社会的判断ができるようにしている。	○授業の様子 ○授業ノート ○定期試験
主体的に学習に取り組む態度	授業を通じて、自己実現における課題に向き合ったり、積極的に社会に関わったりして、社会参画がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、学習で得た技能を効果的に使おうとしている。	○授業の様子 ○授業ノート

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

時事問題などを例に挙げ、新聞やニュースで聞いたことのある内容も勉強し、社会を生き抜くために必要な知識が身につくようサポートしていく。苦手意識を持たずに積極的に授業参加し、理解できなかったこと、疑問点があれば、どんどん質問に来てほしい。

科目	単位数	対象学年	対象クラス
数学Ⅰ・数学A	6	1年生	Ⅱコース

教科書名 数学Ⅰ・A・Ⅱ

副教材名 Focus Gold I A アドバンスα I・A サンダイヤル データの分析  
問題集ノート Cue (図形の性質)

## 1. 科目目標

納得するまで考える忍耐力を身に付ける

- ① 分析力の向上（状況判断する力）
- ② 翻訳力の向上（課題の内容を自分の言葉で言い換える力）
- ③ 目標設定力の向上（課題解決に向かうスモールステップを自分で設ける力）
- ④ 遂行力の向上（課題解決の過程を説明する力）

## 2. 学習計画及び評価方法

(CanDo リストになっています。単元毎に自己評価をしましょう)

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	数と式       2次関数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校数学の基礎となる計算力や工夫の仕方を身に付ける。</li> <li>□ 中学数学を元に、展開公式や因数分解の手法、1次不等式、絶対値記号のはずし方や対称式の性質を学ぶ。(①分析力④遂行力)</li> <li>□ パラメータの取り扱いを学ぶ。(②翻訳力③目標設定力④遂行力)</li> <li>・2次関数の性質や、パラメータが絡んだ時の兼ね合いなどを理解する。</li> <li>□ 対称移動や平行移動を頂点の特徴を活かして理解する。合わせて、式のみの変形で理解する。(①分析力②翻訳力)</li> <li>□ パラメータが入った場合のグラフの動き方を理解し、最大値や最小値を求めることができる。(①分析力②翻訳力④遂行力)</li> <li>□ 方程式・不等式・グラフを元に考察し、解の配置問題が解ける。(①分析力③目標設定力)</li> </ul>
	~ 7		

	<b>集合と命題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・論証する方法を身に付ける。</li> <li><input type="checkbox"/>集合の考え方を利用して要素の個数が数えられる。(②翻訳力③目標設定力)</li> <li><input type="checkbox"/>対偶や背理法などの議論を用いて、命題を証明出来る。</li> <li>(①分析力②翻訳力③目標設定力)</li> </ul>
<p><b>【課題・提出物】</b> 教科担当者の指示に従うこと</p>		
<p><b>【第1学期の評価方法】</b> 定期試験の成績を基本とする。しかし、定期試験の平均点の状況によっては、平常点を20%以内で評価することもある。また、日常の授業に対する姿勢や課題の取り組み状況・確認試験の結果などによって減点することもある。</p>		

月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	8 ~ 12           <b>場合の数・確率</b>           <b>平面幾何・三角比</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場合を分ける力を磨く。</li> <li><input type="checkbox"/>集合の考え方を駆使して要素の個数が数えられる。(②翻訳力③目標設定力)</li> <li><input type="checkbox"/>丹念に場合分けができる。</li> <li>(①分析力②翻訳力③目標設定力)</li> <li><input type="checkbox"/>問題それぞれに応じた都合のいい数え方を身に付ける。(②翻訳力③目標設定力)</li> <li>・三角形や円などの図形の性質を学ぶ。</li> <li><input type="checkbox"/>種々の定理を用いて線分比や角の大きさなどを求めることができる。(①分析力③目標設定力)</li> <li><input type="checkbox"/>三角比の概念を学び、図形の問題を解決できる。(③目標設定力④遂行力)</li> </ul>
<p><b>【課題・提出物】</b> 教科担当者の指示に従うこと</p>		
<p><b>【第2学期の評価方法】</b> 定期試験の成績を基本とする。しかし、定期試験の平均点の状況によっては、平常点を20%以内で評価することもある。また、日常の授業に対する姿勢や課題の取り組み状況・確認試験の結果などによって減点することもある。</p>		

	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1 ～ 3	方程式・式と証明    データの分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より高度な方程式の解き方や証明の手法を学ぶ。</li> <li>□複素数を用いて、高次方程式やそれらに関連する概念を身に付ける。(①分析力③目標設定力)</li> <li>□証明する手法を確立する。 (①分析力②翻訳力)</li> <li>・ヒストグラムや箱ひげ図などのグラフを通して、データが分析できる。</li> <li>□「偏差」「分散」などの統計用語を正しく理解し、それらを通してデータが分析できる。 (①分析力②翻訳力)</li> </ul>
	【課題・提出物】 教科担当者の指示に従うこと		
	【第3学期の評価方法】 1, 2学期までの成績を基本とする。しかし、定期試験の平均点の状況によっては、平常点を20%以内で評価することもある。また、日常の授業に対する姿勢や課題の取り組み状況・確認試験の結果などによって減点することもある。		
	【年間の学習状況の評価方法】 定期試験の成績を基本とする。 しかし、定期試験の平均点の状況によっては、平常点を20%以内で評価することもある。また、日常の授業に対する姿勢や課題の取り組み状況・確認試験の結果などによって減点することもある。		

### 3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
知識・技能 ②翻訳力	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。	定期試験、 成果テストや 小テスト
思考・判断・表現 ③目標設定力	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	定期試験、 成果テストや 小テスト
主体的に学習に 取り組む態度 ①分析力 ④遂行力	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする	提出物の状況、 他者との協働の様子、 各種提出物など

4. 学習サポート(教科担当者より)

①授業について

「数学の授業と体育の授業は似ている」→自分でやらないと(間違ふ事をしないと)わからないし、出来るようにもならない。数学で大切なのはアウトプットする事。

- 先ず手を動かす事…自分で出来る部分と出来ない部分を把握し、復習する部分を見付ける。おとなしく聞いて板書を写すことが授業を受けていることと勘違いをしない
- ノートを取るだけで満足しない…カラフルにノートをとっても意味はない。板書を写しているだけでも意味はない。  
大切なのは自分で解けるようになる事
- 分からなければ誰かに尋ねる…「教え合う」事で理解度 90%。数学が苦手と自覚してる人は特に「人に尋ねる」こと心掛ける。  
→win-win の関係を築く。

②学習法について

数学は復習型の教科 「授業→復習→演習→授業→復習→…」を心掛ける。

復習の仕方

- ・ その日の授業に行った問題(解きにくいと感じたもの)を解き直す(計算用紙とか要らないものでよい)その際、気付いた事や解き方のポイントなどをノートに書き込んだり付箋に書いて張り付けたり出来れば good!!→ノートにコメントを書いた分だけ自分オリジナルの参考書が作れる。
- ・ 理解が乏しければ、目印をつけ、数日後にもう一度解き直してみる。
- ・ 授業前にノートを開き、直前の内容を軽く思い出してみる。
- ・ 復習の際は、数式だけ羅列するのではなく、常に「誰かに見せるつもり、誰かに授業をするつもり(④遂行力の向上)」で書くこと。行間の日本語や途中計算をごまかさず丁寧に仕上げること。

演習の仕方…アドバンス $\alpha$  や Focus Gold を中心に演習

- ・ 計算力をつけたい→アドバンス $\alpha$ , Focus Gold \*マーク 1~2
- ・ 考える力をつけたい→アドバンス $\alpha$ , Focus Gold \*マーク 3~4
- ・ Classi やロイロノートを大いに利用すること。

その他

- ・ 進路実現が最大の目標であり、そのためには大学受験を突破しなければならない。最終的に目指すべきところは国公立2次試験であり、そこで合格点を得るためには、参考書や問題集を活用して様々な解法やテクニックを自主的に身に付けること。家庭学習では「思考力を伴うような問題演習」(②翻訳力③目標設定力の向上)をメインに行うこと。(Classi やロイロノートを大いに活用すること)
- ・ アクティブラーニングのときには「課目標」「態度目標」を達成するのを心掛ける。積極的に他者に働きかけ、「静かに座って黙々と解く」ことをしてはならない。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
物理基礎	2	1年	I・IIコース

教科書名 物理基礎（東京書籍）

副教材名 ニューアチーブ物理基礎（東京書籍）

### 1. 科目目標

1. 物理に対する興味関心を高め、物理の基礎的な考え方を身に付ける。
2. 生涯にわたり必要となる科学的な知識・思考力を身に付ける。
3. 物理の学習を通じて、自ら主体的に学ぶ姿勢と、他者と協働して学習する態度を身に付ける。  
 学習した基本的な原理・法則を用いて、身近な物理的な事物・現象を物理学的に解釈し、また、物理に関わる問題に直面したときに、自分の力で解決する方法を見いだす能力と態度を身に付ける。そのために、原理や法則を単に暗記するのではなく、それらを理解させることを目的とし、法則の導出の過程を自ら探求し考える。  
 また、物理現象を理解するにあたり、授業を聞くだけでなく、自らの考えを自分の言葉で表現する機会を大切にし、科学的な思考力を言語表現力とともに高める。

### 2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	物理量の測定と扱い方 速度・加速度	<ul style="list-style-type: none"> <li>有効数字を考慮した数値の表し方を学ぶ。</li> <li>直線運動における変位、速度、加速度などの運動の表し方を理解する。</li> </ul>
	5	1 速さと等速直線運動 2 直線運動の加速度 3 落体の運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>直線上を運動する物体の加速度について理解し、グラフや式を使って物体の運動を分析する。</li> </ul>
	6	さまざまな力とそのはたらき 1 力とつり合い 2 運動の法則	<ul style="list-style-type: none"> <li>物体が空中を落下する際の運動の特徴について理解し、鉛直方向の落下運動の式が扱える。</li> <li>物体にはたらく様々な力を見抜いてベクトルで表す方法を身につけるとともに、それらの力がつり合う条件を見いだせるようになる。</li> <li>作用反作用の法則を理解する。</li> <li>慣性の法則、運動の法則について理解し、物体にはたらく力と運動との関係を分析する。</li> </ul>
<b>【課題・提出物】</b> ・確認テストおよび AL リフレクションシート ・ニューアチーブ物理基礎			
<b>【1学期の評価方法】</b> 定期試験 + 平常点 平常点は以下の項目などにより評価する。 ○ニューアチーブ物理基礎の取り組み ○授業に対する意欲・積極性			
	月	学習内容	学習のねらい
	9	3 さまざまな運動とはたらく力 力学的エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>連結、押し合う2物体の運動を考える。</li> <li>摩擦力を受ける物体の運動について学ぶ。</li> </ul>



2 学 期	10	1 仕事 2 運動エネルギーと位置エネルギー 3 力学的エネルギーの保存	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギーを測るものさしとしての仕事の定義、及び仕事の原理と仕事率について理解する。</li> <li>・仕事をする能力としての運動エネルギーと位置エネルギーの表し方について理解する。</li> <li>・力学的エネルギー保存の法則とその適用条件について、仕事と関連付けて理解を深める。</li> <li>・熱の正体、温度目盛りについて理解する。</li> <li>・熱量、熱容量、比熱、及び熱量の保存について理解し、熱を定量的に扱えるようになる。</li> <li>・仕事と熱の変換、内部エネルギー、及び熱力学第一法則について学び、熱現象とエネルギーの関係について理解する。</li> <li>・熱機関とその熱効率及び熱現象の不可逆性について学び、エネルギーの有効利用についての理解を深める。</li> <li>・波の伝わり方について理解する。</li> <li>・波の基本的な性質を理解し、波の速さ、波長、周期や振動数の量的関係を扱えるようになる。</li> </ul>
	11	1 熱と温度 2 熱の利用	
	12		
		波 1 波の性質	
<p><b>【課題・提出物】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・確認テストおよび AL リフレクションシート</li> <li>・ニューアチーブ物理基礎           ・夏期休業中課題</li> </ul> <p><b>【実験】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・力学的エネルギーの実験       ・ブラウン運動の観察   ・縦波と横波の観察</li> </ul>			
<p><b>【2学期の評価方法】</b> 定期試験 + 平常点 平常点は以下の項目などにより評価する。 ○ニューアチーブ物理基礎の取り組み   ○授業に対する意欲・積極性   ○夏季課題</p>			
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	2 音と振動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・波の独立性、重ね合わせの原理、反射について観察や作図を通して学び、定常波ができるしくみについて理解する。</li> <li>・音波の性質として、うなり、固有振動、共振、共鳴などを学び、楽器の原理について理解する</li> <li>・電気と磁気の基礎を学ぶ</li> <li>・さまざまなエネルギーについて学ぶ</li> </ul>
	2	3 電気と磁気	
	3	4 エネルギーと利用	
<p><b>【課題・提出物】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・確認テストおよび AL リフレクションシート           ・ニューアチーブ物理基礎</li> </ul> <p><b>【実験】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音の波形の観察</li> </ul>			

<p><b>【3学期の評価方法】</b>  定期試験（80%） 平常点（20%） 平常点は以下の項目などにより評価する。  ○ニューアチーブ物理の取り組み ○授業に対する意欲・積極性</p>
<p><b>【年間の学習状況の評価方法】</b> 定期試験 + 平常点  平常点は以下の項目などにより評価する。  ○ニューアチーブ物理基礎の取り組み ○授業に対する意欲・積極性 ○長期休業中課題への取り組み</p>

### 3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	物理量や物理の現象について理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	定期考査 確認テスト
思考・判断・表現	様々な物理現象について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。	グループワークにおける活動 定期試験
主体的に学習に取り組む態度	学習活動に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	学習活動における態度、 振り返りシート

### 4. 学習サポート（事前・事後学習等について）

<p>1. 日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち、その法則性について考える態度を身につけましょう。</p> <p>2. 物理法則の導出過程を大切にし、論理的な思考力を高めよう。</p> <p>3. クループ活動・討論をしながら、学び合い・教え合う姿勢を身につけましょう。</p> <p>4. 繰り返し演習に取り組み、徹底して基礎を定着させましょう。</p> <p>&lt;定期試験に向けて&gt;</p> <p>1. 演習プリントで基礎の確認。（教科書，授業プリントの見直しや解き直し）</p> <p>2. ニューアチーブ物理基礎を2～3周し，理解を深めましょう。</p>
---

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
化学基礎	2	1	全クラス

教科書名 化学基礎 academia ( 実教出版 )

副教材名 新インプレス化学基礎ノート ( 浜島書店 )

## 1 科目目標

物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3) 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

## 2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	<b>1章 物質の構成</b> <b>1節 物質の探究</b> 1 物質の分離と精製 2 物質と元素 3 物質の三態と熱運動	・物質が原子、イオン、分子から構成されていることを理解する。
	5	<b>2節 物質の構成粒子</b> 1 原子の構造 《1学期中間試験(8時間)》 2 イオンの生成 3 周期表	・構成粒子の違いと物質の種類の違いを理解する。
	6	<b>2章 物質と化学結合</b> <b>1節 イオン結合</b> 1 イオン結合とイオン結晶	・イオンの生成を電子配置と関連付けて理解し、イオン結合およびイオン結合からなる物質の性質を理解する。
		<b>2節 共有結合と分子間力</b> 1 共有結合	・共有結合を電子配置と関連付けて理解し、分子からなる物質の性質を理解する。さらに、配位結合の仕方も学習する。
	7	《1学期期末試験(8時間)》	
			【課題・提出物】 (1) 授業中に配布する演習プリント (2) 授業ノート (3) 各定期テストの該当範囲を解答した新インプレス化学基礎ノート
			【1学期の評価方法】 (1) 定期試験の成績(80%) ①知識・理解の確認とともに、実験について問う記述式問題も出題する。

	(2) 学習態度等の平常点(20%) ①授業時の学習過程で、評価の観点の3項目について評価する。 ②課題の提出状況・小テストの成績を総合して評価する。		
	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	2 分子間力 3 共有結合からなる物質 <b>3節 金属結合</b> 1 金属結合	・分子間の結合によって物質ができていることを理解する。 ・金属原子間の結合及び金属からなる物質の性質を理解する。
	10	<b>4節 化学結合と物質</b> 1 物質の分類  《2学期中間試験(10時間)》	・1～3節において学んだ物質の結晶を、結合の違いによって区別し、性質を整理する。具体的な物質について、それぞれ性質や利用例を理解する。
	11	<b>3章 物質の変化</b> <b>1節 物質と化学反応式</b> 1 物質と分子量・式量 2 物質 3 溶液の濃度 4 化学反応式	・原子量・分子量・式量などの物質の基本事項を学習する。 ・物質と溶液の濃度の関係を学習する。
	12	A 化学変化と化学反応式 《2学期期末試験(12時間)》	・化学反応式の表し方について学習する。
【課題・提出物】 (1) 授業中に配布する演習プリント (2) 授業ノート (3) 夏季休業中の課題 (4) 各定期テストの該当範囲を解答した新インプレス化学基礎ノート			
【2学期の評価方法】 (1) 定期試験の成績(80%) ①知識・理解の確認とともに、化学的思考を問う問題も出題する。 (2) 学習態度等の平常点(20%) ①授業時の学習過程で評価の観点の3項目について評価する。 ②課題の提出状況・小テストの成績を総合して評価する。			
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	4 化学反応式 B 化学変化と量的関係	・化学反応式は化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解する。
	2	参考 基本法則に関連した化学史	・化学の進歩の歴史と基本的な法則の発見の経緯について理解する。
	3	<b>2節 酸と塩基</b> 1 酸と塩基  《学年末試験(12時間)》	・水溶液の酸性・塩基性の強弱と電離度との関係について理解する。

<p><b>【課題・提出物】</b> (1) 授業中に配布する演習プリント (2) 授業ノート (3) 冬季休業中の課題 (4) 定期テストの該当範囲を解答したインプレス化学基礎ノート</p>
<p><b>【3学期の評価方法】</b> (1) 定期試験の成績(80%) ①知識・理解の確認とともに、化学的思考を問う問題も出題する。 (2) 学習態度等の平常点(20%) ①授業時の学習過程で評価の観点の3項目について評価する。 ②課題の提出状況・小テストの成績を総合して評価する。</p>
<p><b>【年間の学習状況の評価方法】</b> 各学期の成績と平常点を総合して評価する。</p>

### 3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。</li> <li>・物質とその変化に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探求する基礎を身につけている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時の様子</li> <li>・授業ノート</li> <li>・定期テスト</li> <li>・小テスト</li> <li>・課題レポート</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物質とその変化の中に問題を見出し、研究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時の様子</li> <li>・授業ノート</li> <li>・演習プリント</li> <li>・定期テスト</li> <li>・課題レポート</li> </ul>
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身につけている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時の様子</li> <li>・授業ノート</li> <li>・演習プリント</li> <li>・課題レポート</li> </ul>

### 4 学習サポート（事前・事後学習等について）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・随時、学習相談を実施しています。つまづいている箇所があれば早めに質問して下さい。対面に加えてロイロノートを利用した学習相談もできます。</li> <li>・ロイロノートを利用した資料の配信・課題の提出・小テストなどを行い、学習内容の理解の深化や定着を促します。</li> <li>・化学は理系科目の土台になる科目です。2年次以降に化学を選択しない生徒にも共通する範囲がありますので、一生懸命に取り組みましょう。</li> </ul>
--

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
生物基礎	2	1 学年	I・II コース

教科書名 生物基礎 (数研出版)

副教材名 スクエア最新図説生物 (第一学習社) セミナー生物基礎 (第一学習社)

スタディアップノート生物基礎 (数研出版)

### 1. 科目目標

#### 1. 「生物」の面白さを知る

「生物」という科目では、生命現象のしくみや生命同士のつながり、生命の歴史について学ぶ。これらは、生命のひとつである「自分自身」を知ること・理解することであり、考えることだ。生命の神秘さ、面白さを知る。

#### 2. 学力をつける

日本大学基礎学力到達度テスト、大学入学共通テストに対応できる学力を構築する。

#### 3. 客観的な視点を育む

「生物」の学びを通して、「自分自身」や「自分自身をとりまく世界」を客観的に理解する視点を育む。

### 2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4 5	第1編 生物の特徴 第1章 生物の特徴 1. 生物の多様性と共通性 2. エネルギーと代謝	第1章 生物の特徴 生物は多様であること、多様な生物にも細胞構造をもつなど共通性があること、その共通性は共通の起源をもつことに由来することを学習する。さらに、酵素のはたらき、光合成と呼吸の学習を通して、生物が代謝によってエネルギーを取り出していることを学習する。
		1 学期中間試験 [8 時間]	
	5	3. 呼吸と光合成	
	6	第2章 遺伝子とそのはたらき 1. 遺伝情報と DNA 2. 遺伝情報の複製と分配 3. 遺伝情報の発現 1 学期期末試験 [7 時間]	第2章 遺伝子とそのはたらき 遺伝子の本体である DNA について、構造および遺伝情報について理解する。また、転写と翻訳の概要から、生命現象において重要なタンパク質の合成について学習する。さらに、遺伝情報は正確に複製されて受け継がれること、それぞれの細胞では異なる遺伝子が発現していることを理解する。

1 学 期	【課題・提出物】
	・ 定期試験ごとにセミナー生物基礎の指定された問題を解答して、提出する
	【第1学期の評価方法】
	・ 定期試験の成績（80%） ・ 学習態度及び提出物（20%）

月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	第2編 ヒトの体内環境の維持 第3章 ヒトの体内環境の維持 1. 体内での情報伝達と調節 2. 体内環境の維持のしくみ 2学期中間試験[12時間]	第3章 生物の体内環境 多細胞動物の体内の細胞にとって、体液は一種の環境（体内環境）である。体内環境が一定に保たれているしくみや調節方法について学ぶ。また、循環系、腎臓、肝臓、自律神経系と内分泌系、免疫について学習する。
11	3. 免疫のはたらき 2学期期末試験 [11時間]	
	【課題・提出物】	
	・ 定期試験ごとにセミナー生物基礎の指定された問題を解答しえ、提出する	
	【第2学期の評価方法】	
	・ 定期試験の成績（80%） ・ 学習態度及び提出物（20%）	

月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	第3編 生物の多様性と生態系 第4章 植生の多様性と生態系 1. 植生と遷移 2. 植生の分布とバイオーム 3. 生態系と生物の多様性 4. 生態系のバランスと保全 3学期期末試験 [14時間]	第4章 植生の多様性と生態系 植生について、その構造や遷移のしくみについて学習する。さらに、地球上にはさまざまなバイオームが見られ、バイオームの分布は、気温と降水量によって決まることを理解する。また、生態系の成り立ち、生態系における物質循環とエネルギーの流れについて学習する。その上で、生態系はそのバランスが保たれていることを理解する。
	【課題・提出物】	
	・ 定期試験ごとにセミナー生物基礎の指定された問題を解答して、提出する	
	【第3学期の評価方法】	
	・ 定期試験の成績（80%） ・ 学習態度及び提出物（20%）	
	【年間の学習状況の評価方法】	
	・ 年間の成績は、学年末に各学期の成績を総合して評価する	

### 3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	・生物や生物現象を通して自然に対する関心や探究心をもち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲とともに、科学的な自然観や生物学的に探究する能力と態度を身につけようとする。	・授業時の様子 ・課題提出 ・定期テスト
思考・判断	・生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、自然を科学的にとらえられる。	・授業時の様子 ・課題提出 ・定期テスト
技能・表現	・生物現象について探究する場合に、それらを個々のレベルで分析すると同時に、全体を総合的にとらえ、それを表現することができる。	・授業時の様子 ・課題提出 ・定期テスト
知識・理解	・生物や生物現象について、それらの基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を身につけている。 ・自然界の様々な事象を科学的に考察する能力と、豊かな科学的素養が身につけている。	・授業時の様子 ・課題提出 ・定期テスト

### 4. 学習サポート

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 随時、学習相談を実施しています。</li> <li>・ 授業内容と問題集の橋渡しとして、單元ごとに授業プリントを用いた演習を行います。</li> </ul>
---



科目	単位数	対象学年	対象クラス
体育	2	1	I・IIコース共通

教科書名 現代高等保健体育

副教材名 現代高等保健体育ノート

1 教科目標

生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため

- (1) 運動の多様性や体力の必要性を理解し、それらの知識・技能を身に付ける。
- (2) 自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
- (3) 健康・安全を確保し、運動に親しむ態度を養う。

2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	集団行動 ①集合・隊形 ②方向変換・列の増減  体づくり運動・体育理論（通年で行う） (1) 体づくり運動 ①体ほぐしの運動 ②実生活に生かす運動の計画  (2) 体育理論 スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展（1年次） 運動やスポーツの効果的な学習の仕方（2年次） 豊かなスポーツライフの設計の仕方（3年次）  陸上競技〔走〕ア競争 ①短距離走 ②持久走	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団の一員として迅速に、かつ安全に行動できるようにする。</li> <li>①のびのびとした動作で用具などを用いた運動を行うことを通して、気付きや関わり合うことを身に付ける。</li> <li>②健康に生活をするための体力の向上、運動を行うための体力の向上を図る運動の計画と実践に取り組む姿勢を養う。</li> <li>・以下4項目に関し、体育実技の実施と関連させながら学習する。</li> <li>①スポーツの歴史的発展と多様な文化</li> <li>②現代スポーツの意義や価値</li> <li>③スポーツの経済的効果と高潔さ</li> <li>④スポーツが環境や社会にもたらす影響</li> <li>・中学校までの学習を踏まえて、記録の向上や競争の楽しさを味わう。</li> <li>・ルールマナーを大切にし、役割を積極的に引き受け、自己の責任を果たすことに意欲を持って取り組む。</li> <li>・毎年継続して記録する、スポーツテスト〔走〕の種目の自己の目標達成及び記録向上を目指す。</li> </ul>
	5	<b>スポーツテスト（新体力テスト）</b> 種目：握力・上体起こし・長座体前屈・反復横とび・持久走・50m走・立ち幅跳び・ハンドボール投げ  <b>バレーボール（男子）</b> ①オリエンテーション 整列指導・規律訓練 指導計画・ルール等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の今持っている体力を知り日常の運動の習慣を身につけ、生涯スポーツに繋がる土台を養う。</li> <li>・ボールを落とさず、ラリーを続ける楽しさが感じられるようにする。</li> </ul>

1 学 期	6	<p>②ボール慣れ・バレーボールを楽しむ</p> <p>③個人技術の習得 個人・集団の技能修得内容 (直上パス・対人パス) オーバーハンド・アンダーハンド (サービス) アンダーハンド・フローター等 (レシーブ) サーブレシーブ・スパイクレシーブ (スパイク) オープン・クイック</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボールを相手側のコートの守備のいない空間に緩急や高低などの変化をつけて打ち返すことを目指す。</li> <li>・役割に応じたボール操作や連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開できる力をつける。</li> <li>・サーブ・レシーブ・スパイク等の練習を通じて、各種の技術を取得するとともにルールを理解し、仲間と協力してゲームが展開できるようにする。</li> </ul>
	7	<p><b>バレーボール (女子)</b></p> <p>①オリエンテーション 整列指導・規律訓練 指導計画・ルール等</p> <p>②ボール慣れ・バレーボールを楽しむ</p> <p>③個人技術の習得 個人・集団の技能修得内容 直上パス・対人パス オーバーハンド・アンダーハンド サービス アンダーハンド・フローター等 レシーブ サーブレシーブ・スパイクレシーブ・ゲーム ※体育理論</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間と連携して、ネット型スポーツの基本的動作を習得し、攻防を展開できる力をつける。</li> <li>・ボールを落とさず、ラリーを続ける楽しさが感じられることを目指す。</li> <li>・基本技術のパス・レシーブの習得に重点を置き、ラリーが続けられるようにする。</li> <li>・サーブ・レシーブ・スパイク等の練習を通じて、各種の技術を取得するとともにルールを理解し、仲間と協力してゲームが展開できるようにする。</li> </ul>
【課題・提出物】なし			
【1学期の評価方法】			
<p>①実技試験 (60%)</p> <p>バレーボール (男子)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・サービス・スパイク等の実技試験。</li> <li>・ルールを理解し、試合を進めることができるか。</li> </ul> <p>バレーボール (女子)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・サービス・スパイク等の実技試験。</li> <li>・ルールを理解し、試合を進める事ができるか。</li> </ul> <p>②授業態度・意欲・服装・出席状況・ルール小テストなど学習態度等の平常点 (40%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に授業へ参加し、準備や片付けも協力してできる。</li> <li>・正しい服装で授業へ参加できている。</li> <li>・ルール等の確認テスト</li> </ul>			
月	学習内容		学習のねらい
9	<p>スポーツテスト(新体力テスト)</p> <p>種目：握力・上体起こし・長座体前屈・反復横とび・持久走・50m走・立ち幅跳び・ハンドボール投げ</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の今持っている体力を知り日常の運動の習慣を身につけ、生涯スポーツに繋がる土台を養う。</li> <li>・休まずに決められた距離・時間を自分のペースで走ることができるようにする。</li> </ul>

2 学 期	10	陸上競技（長距離走） ①ジョギング ②持久走	・比較的長い距離を決められた時間内でゴールすることができるようにし、記録の向上を目指す。
		<b>※水泳（男子）</b>	※施設や状況を踏まえ、実施予定。 ・四泳法及び安全の確保の方法を身に付ける。
		<b>サッカー（男子）</b>	・仲間と連携してゴール型スポーツの基本的動作を習得し、攻防を展開できる力をつける。 （インステップキック） 自分の狙った場所にボールを蹴る。 （インサイドキック） 自分の狙った場所にボールを蹴る。 （リフティング） ボールを落とさずに蹴り続けることができる。自分の蹴りやすい場所にボールを置くことができる。
		①キック ・インステップキック ・インサイドキック ・リフティング	
		②コントロール グラウンダーのボール、浮き球	
		③ドリブル	
		④フェイント フェイントシザース ボディフェイント	・エッジコントロール・クッションコントロール・胸、正確なボールタッチで速くボールを運ぶことができる。 ・落ち着いたフェイントの技術を発揮することができる。
		⑤ゲーム	・攻撃・守備の基本的な原則を理解し実践することができる。
		⑥ルールの理解	・プレイの開始、ファウル、不正行為、オフサイド、スローイン、ゴールキック、コーナーキックなどのルールを理解してゲームに取り組むことができるようにする。
		10	<b>ダンス（女子）</b>
11	①ウォーミングアップ ストレッチ・クーリングダウン	①各動作の特徴を正確にとらえ、表現することができるようにする。	
11	②現代的なリズムのダンス ヒップホップ・エアロビクスなど	②音楽に合わせて表現したい内容を踊り、楽しむ。	
11	③発表	③作品に変化とまとまりを付けて発表をする。	
12	<b>器械体操・卓球（男子）</b> （器械体操）	・技の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法を理解するとともに、基本的な技を滑らかに安定して行うことができるようにする。	
		①マット運動回転系・接点技群	
		②マット運動回転系・翻転技群	

2 学 期	12	<p>(卓球)</p> <p>①グリップ 用具の扱い方</p> <p>②ストローク</p> <p><b>バスケットボール (女子)</b></p> <p>基本動作 ※体育理論</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間と連携して、ネット型スポーツの基本的動作を習得し、攻防を展開できる力をつける。</li> <li>・用具の操作について理解をする。</li> </ul> <p>フォアハンド・バックハンドの正しいフォームを習得し、ラケットの中央でボールを捉えられるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間と連携して、ゴール型スポーツの基本的動作を習得し、攻防を展開できる力をつける。</li> <li>・ルールや基本動作を理解・実践する。</li> </ul>
	<p>【課題・提出物】なし</p> <p>【第2学期の評価方法】</p> <p>①実技試験 (60%)</p> <p>サッカー (男子)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インステップキック, インサイドキック, リフティングなどの実技試験。</li> <li>・ルールを理解し, 試合を進める事ができるか。</li> </ul> <p>ダンス (女子)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振りを的確に覚え, 表現することが出来るか。(個人・集団)</li> <li>・ダンスの特性に関心を持ち, 楽しさや喜びをあじわえるよう進んで取り組もうとしているか。</li> <li>・互いの良さを認め合い, 協力して練習及び創作・発表に取り組んでいるか。</li> </ul> <p>陸上競技 (長距離走)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に練習に取り組んでいるか。</li> <li>・個々の能力に応じた記録の向上がみられたか。</li> </ul> <p>②授業態度・意欲・服装・出席状況・ルール小テストなど学習態度等の平常点 (40%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に授業へ参加し, 準備や片付けも協力してできる。</li> <li>・正しい服装で授業へ参加できている。</li> <li>・ルール等の確認テスト。</li> </ul>		
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	<p><b>器械体操・卓球 (男子)</b></p> <p>(器械体操)</p> <p>①マット運動回転系・接点技群</p> <p>②マット運動回転系・翻転技群</p> <p>③連続技</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・回転系接点技群と翻転技群の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技することができるようにする。</li> </ul>
	2	<p>(卓球)</p> <p>①グリップ</p> <p>②ストローク</p> <p>③サービス</p> <p>④ルールの理解</p> <p>⑤ラリーの組み立て方</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービス時のルールを理解させロング、ショートサービスを使い分けるようにする。</li> <li>・基本的なルールを理解する。</li> </ul> <p>ツッツキ、ドライブなどの球種を理解しゲームの中の攻防に組み入れることができるようにする。</p> <p>卓球の特性であるリズム感を習得し、ラリーを続けることができるようにする。</p>

	<p><b>バスケットボール（女子）</b></p> <p>①ハンドリング ②レグスルー ③シュート     セットシュート     レイアップシュート ④ドリブル各種 ⑤パス各種 ⑥ゲーム・ルール理解 ※体育理論</p>	<p>・手、指でボールを扱うことができる。</p> <p>・ボールを両手、片手、左右で自在に操ることが出来る。パス、ドリブル、シュートの感覚を身に付ける。</p> <p>・レイアップシュート、ゴール下シュートができるようにする。</p> <p>攻撃・守備の基本を理解し、基本的な技術を身につけ、ミニゲームで実践することができるようにする。</p>
<p>【課題・提出物】なし</p>		
<p>【第3学期の評価方法】</p> <p>①実技試験（60%） 器械体操（男子）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身につけた技を構成して演技し評価する。</li> <li>・自己の課題に応じた練習を行い、新しい技へ挑戦したり、健康・安全を確保したりしている。</li> </ul> <p>卓球（男子）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サーブ、スマッシュ等の試験による評価。</li> <li>・ルールを理解し、試合を進めることができる。</li> </ul> <p>バスケットボール（女子）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドリブル・シュートの試験による評価。</li> <li>・ルールを理解し、試合を進めることができる。</li> <li>・道具の準備や片付けを協力しながら積極的にできる。</li> </ul> <p>②授業態度・意欲・服装・出席状況・ルール小テストなど学習態度等の平常点（40%）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に授業へ参加し、準備や片付けも協力してできる。</li> <li>・正しい服装で授業へ参加できている。</li> <li>・ルール等の確認テスト。</li> </ul>		
<p>【年間の学習状況の評価方法】</p> <p>学年末評定は1学期・2学期・3学期の実技の平均（60%） 年間の授業態度・意欲・服装・出席状況・（40%） 上記を総合的に判断して評価する。</p>		

### 3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	<p>運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。</p> <p>1. 運動技術（技）の名称や試合を進めるためのルールを学ぶ姿勢がある。</p> <p>2. 各運動の特性に応じて段階的な技能を身につけており、ゲームに生かすことができる。</p> <p>3. 各運動の特性に応じて勝敗を競い、攻防を展開できる技能を有する。</p>	<p>実技テスト 確認テスト 記録 観察</p>

	4. ミニゲームの審判を務めることができる。	
思考・判断・表現	<p>自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それを他者に伝えている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己や仲間の状況に応じて体力を高める運動を継続するための取り組みを工夫し、伝えようとしている。</li> <li>2. 課題解決のために身に着けた技能を生かすことができる。</li> </ol>	記録 観察
主体的に学習に取り組む態度	<p>運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 欠席が少なく、授業への参加態度が良好である。</li> <li>2. 健康・安全に配慮した服装で参加をし、学習に主体的に取り組もうとする態度で臨んでいる。</li> <li>3. 多様性を理解し仲間と協力することができる。</li> </ol>	記録 観察

#### 4 学習サポート（事前・事後学習等について）

実技科目の特性上、基本は授業内で実施をするが、必要性や状況に応じて対応をする。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
保健	1	1	I・IIコース共通

教科書名 現代高等保健体育 (大修館書店)

副教材名 現代高等保健体育ノート (大修館書店)

### 1 科目目標

健康・安全について理解を深めるようにし、自らの健康に興味を持ち、適切に管理し改善していくための資質・能力を育成する。

### 2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	1 単元 現代社会と健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな健康の考え方について理解する。</li> <li>・健康を成り立たせている要因を理解する。</li> <li>・わが国の健康水準の変化とその背景について理解する。</li> <li>・わが国の現在の健康問題について理解する。</li> <li>・生活習慣病の種類と要因について理解する。</li> <li>・生活習慣病の一次予防、二次予防について理解する。</li> <li>・がんの種類や原因について理解する。</li> <li>・がんの一次予防と二次予防について理解する。</li> <li>・がんのおもな治療法や緩和ケアについて理解する。</li> <li>・がん検診の普及や情報サービスの整備などの社会的な対策について理解する。</li> <li>・健康と運動の関係について理解する。</li> <li>・目的に応じた健康的な運動のしかたを身につける。</li> <li>・食事と健康の関係について理解する。</li> <li>・健康的な食事のとり方について理解し、身につける。</li> <li>・健康と休養の関係及び適切な休養のとり方について理解する。</li> <li>・健康と睡眠の関係及び健康によい睡眠のとり方について理解する。</li> <li>・喫煙者やその周囲の人に起こる害について理解する。</li> <li>・喫煙対策について、個人と社会に分けて例をあげ、説明することができる。</li> <li>・飲酒による健康への短期的影響と長期的影響について理解する。</li> <li>・飲酒による健康問題に対する個人や社会環境への対策について例をあげ、説明することができる。</li> <li>・薬物乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響について理解する。</li> <li>・薬物乱用防止のための個人や社会環境への対策について例をあげ、説明することができる。</li> </ul>
		1 健康の考え方と成り立ち	
		2 私たちの健康のすがた	
		3 生活習慣病の予防と回復	
	5	4 がんの原因と予防	
		5 がんの治療と回復	
		6 運動と健康	
	6	7 食事と健康	
		8 休養・睡眠と健康	
		9 喫煙と健康	
	7	10 飲酒と健康	
11 薬物乱用と健康			

【課題・提出物】 ○保健ノート ○授業プリント ○課題レポート			
【1学期の評価方法】 ○定期試験 ○平常点（保健ノート、プリント、レポートなどの提出状況）			
	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	12 精神疾患の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>精神疾患の例をあげ、発病の要因とおもな症状について理解する。</li> <li>現代社会における精神保健の課題をあげることができる。</li> </ul>
	10	13 精神疾患の予防	<ul style="list-style-type: none"> <li>精神疾患を予防する方法について理解する。</li> <li>精神疾患の治療について理解する。</li> </ul>
		14 精神疾患からの回復	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染症とは何かについて潜伏期間や感染力なども含めて例をあげることができる。</li> </ul>
		15 現代の感染症	<ul style="list-style-type: none"> <li>新興感染症と再興感染症が流行する要因をそれぞれ理解する。</li> </ul>
	11	16 感染症の予防	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染症の予防対策について3原則を理解し、例を挙げることができる。</li> <li>感染症への個人と社会の対策について理解し、例をあげて説明できる。</li> </ul>
		17 性感染症・エイズとその予防	<ul style="list-style-type: none"> <li>性感染症・エイズがほかの感染症と異なる点について理解する。</li> <li>性感染症・エイズの予防とその対策について個人と社会に分けて例をあげることができる。</li> </ul>
	12	18 健康に関する意思決定・行動選択	<ul style="list-style-type: none"> <li>意思決定・行動選択に影響を与える要因について理解する。</li> </ul>
		19 健康に関する環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会環境の健康への影響について理解する。</li> <li>ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくりの特徴について理解する。</li> </ul>
	【課題・提出物】 ○保健ノート ○授業プリント ○課題レポート		
【2学期の評価方法】 ○定期試験 ○平常点（保健ノート、プリント、レポートなどの提出状況）			
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	2 单元 安全な社会生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>事故の実態と被害の実態について理解する。</li> <li>事故の発生には人的要因と環境要因が関連していることについて例をあげて理解する。</li> </ul>
		1 事故の現状と発生要因	
	2	2 安全な社会の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全のために必要な個人の行動について理解する。</li> <li>すべての人たちの安全を確保するために必要な環境整備について例をあげて理解する。</li> </ul>
3	3 交通における安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通事故防止における個人の取り組みと交通</li> </ul>	



	<p>4 応急手当の意義とその基本</p> <p>5 日常的な応急手当</p> <p>6 心肺蘇生法</p>	<p>環境の整備について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通事故における責任を3つに分け理解する。</li> <li>・応急手当の意義について理解する。</li> <li>・傷病者を発見したときに、確認・観察するポイントを身につけ、実践できる。</li> <li>・日常的なけがや熱中症の応急手当の手順や方法について身につけ、実践できる。</li> <li>・実際に、日常的なけがや熱中症の応急手当の仕方を身につける。</li> <li>・心肺蘇生法の方法と手順について理解する。</li> <li>・実際に、心肺蘇生法の仕方を身につける。</li> </ul>
<p>【課題・提出物】 ○保健ノート      ○授業プリント      ○課題レポート</p>		
<p>【3学期の評価方法】 ○定期試験 ○平常点（保健ノート、プリント、レポートなどの提出状況）</p>		

【年間の学習状況の評価方法】

100点法にて評価（試験・平常点で総合評価する）

《詳細》

- (1) 各学期評価【試験における素点の80%+平常点20%にて評価】各学期，年度末とも
- (2) 年度末評価【(1学期素点+2学期素点+3学期素点)÷3+年間平常点素点÷3にて評価】
- (3) 平常点の算出

授業に対する評価・スモールテスト・DVD視聴，まとめレポートにて意欲・関心・態度，思考・判断、知識・理解の観点を総合評価する。

3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	<p>○ペーパー試験において、事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題をバランスよく出題する。</p> <p>○授業中に知識や技能を用いる場面を設定する。実習や体験（応急手当や心肺蘇生など）を行う。</p>	<p>定期試験 豆テスト 観察</p>
思考・判断・表現	<p>○論述やレポートの作成，発表。グループでの話し合いなどを行う。</p>	<p>レポート 観察</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>○ノートやレポートによる記述 ○授業中の発言 ○自己評価</p>	<p>観察</p>

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

質問に関しては，随時教科担当者が対応する。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
音楽 I	2	1 学年音楽選択者	全クラス

教科書名 高校音楽 I Tutti+ ( 教育出版 )

## 1 科目目標

<p>(1) 歌唱を通して、曲種に応じた発声や曲想を工夫し表現する技能を高める。</p> <p>(2) 器楽演奏を通して、楽器奏法や視奏力を身につけ、合奏の楽しさを味わう。</p> <p>(3) 時代や地域に基づく音楽文化について、理解を深めるとともに、主体的に鑑賞し根拠をもって自分なりに思考・判断することのできる言語表現力を養う。</p> <p>(4) 音楽の組み立て方を学び、創作の技能を身につける。</p>
---

## 2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	○校歌・学生歌・応援歌の歌唱	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽曲の特徴や歴史的背景を理解し、意欲的に活動する。</li> <li>・作品に合った発声を習得する。</li> <li>・音楽史を理解する。</li> <li>・多角的な観点から学びを深める。</li> <li>・斉唱・合唱により発声とフレーズの表現の工夫をする。</li> <li>・音程やリズムなどの読譜力を高める。</li> <li>・パートの役割を意識し、協力して曲を作り上げる。</li> </ul>
	5	○日本歌曲や西洋歌曲の歌唱 (イタリア・ドイツ歌曲)	
	6	○日本及び世界各国の音楽的特徴・特色の理解 ○他の芸術と音楽の結びつきを学ぶ	
	7	○合唱曲の歌唱  ○ボディーパーカッションやヴォイスアンサンブルを通したリズムの理解、グループ演奏	
【課題・提出物】ワークシート			
【1学期の評価方法】			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱実技テスト</li> <li>・平常の取り組み (ワークシート・鑑賞の記録等)</li> </ul>			
	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	○ミュージカルの鑑賞と歌唱 ○洋楽の理解と歌唱	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の様式を理解する。</li> <li>・曲想を工夫し、表現する。</li> <li>・正しい奏法を体得する。</li> <li>・コードを用いて弾き語りをする。</li> <li>・楽曲特有の特徴や歌唱法を理解し、表現の工夫をする。</li> <li>・様々な楽器の特性を理解する。</li> </ul>
	10	○ギター奏法の習得 ○コードについての理解	
	11	○欧米、民族の音楽の理解 ○オペラの鑑賞 ○映画音楽の歌唱	
	12	○日本の楽器やオーケストラの楽器の理解	

		○ハンドベル演奏 ○ゴスペル曲の歌唱	・他者と協調し、合奏する。 ・様式を理解し、表現する。
	【課題・提出物】ワークシート		
	【2学期の評価方法】 ・ギター実技テスト ・平常の取り組み（ワークシート・鑑賞の記録等）		
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	○日本音楽（伝統音楽・ポピュラー音楽）の理解 ○音楽の仕組み、構成要素、楽典の理解	・伝統音楽における構造を理解する。 ・作品を通して、基本的な楽典を理解する。
	2	○シャンソンの歌唱	・楽曲特有の発音、歌唱法を理解し、表現の工夫をする。
	3	○自由発表	・各自が主体的に創意工夫をし、演奏や作品発表をする。
	【課題・提出物】ワークシート		
	【3学期の評価方法】 ・自由発表 ・平常の取り組み（ワークシート・鑑賞の記録等）		
【年間の学習状況の評価方法】 ○平常点 20%、実技点 80% ※各定期試験は実施しない。 ○学年末評価は三学期評価を算出の上、各学期の平均として行う。			

### 3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	楽曲の文化的・歴史的背景や、作曲家及び演奏者による表現の特徴を理解し演奏や鑑賞ができる。	・歌唱 ・ワークシート提出
思考・判断・表現	曲想を歌詞の内容や楽曲の背景と関わらせて感じ取り、イメージをもって演奏や鑑賞ができる。 曲種に応じた発声や奏法の特徴を生かし、表現を工夫して演奏ができる。	・歌唱 ・器楽演奏・ ・ワークシート提出
主体的に学習に取り組む態度	音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを感受して演奏や鑑賞ができる。	・歌唱 ・器楽演奏 ・ワークシート提出

### 4 学習サポート（事前・事後学習等について）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽譜の読み方、リズムや音程の取り方、楽器の奏法などの個別指導も行う。</li> <li>・休み時間なども相談を受け付ける。</li> <li>・音楽系大学や音楽教育分野などの進路指導にも対応する。</li> </ul>
---

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
美術 I	2	1 学年美術選択者	全クラス

教科書名 高校生の美術 1

副教材 実習に必要な材料・用具(年度初めに用意)

### 1. 科目目標

- (1) 幅広い制作活動を通して、造形的な表現への興味や関心を高めるとともに具体的に表現するための技能や知識を習得する。
- (2) 社会の造形的な文化活動について理解を深めるとともに、社会参加のために将来必要となる資質や能力を高める。

### 2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	◎「ドローイング」	・透視図的な物の見方やハッチングなど描画を体験し、空間認識力を高める。
	5	: 線描写を用いて空間を表現する	
	6	◎「高さに挑戦」	・材料や道具の基本的な性質を理解し、限られた条件で表現する柔軟性や巧緻性を養う。 ・自己分析シートを活用し、自己評価力を高める。
	7	: 紙工作でより高い造形物を作る	
【課題・提出物】			
・作品 8 枚			
【1 学期の評価方法】			
・平常点：出席数、授業態度、作品の提出率など 20 点			
・技能点：作品やアイデアスケッチから授業理解や表現力を評価 80 点 (発想・構想 各 5 点)・(創造的技能 各 5 点)×8 作品			
	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	◎「空想の生物と図鑑の制作」	・立体的な想像力を高め、空間認識力を育成する。 ・混色や重色などについて理解し、配色の効果についての思考力、表現力を高める。
	10	: 塑像による立体表現と	
	11	着彩による色彩効果の学習	・これまでの多様な学習内容を活かして想像を膨らませ、発想力や構想力を育む。 ・動画原理の学習からアニメーションへの関心を抱く。 ・動画作品を鑑賞する人に、表現者の意図が伝わる喜びを味わい、表現目的や造形文化について考える。
	12	◎「ゾートロープ」	
: アニメーションの学習			
【課題・提出物】			
・作品(立体作品、ゾートロープ)			
【2 学期の評価方法】			
・平常点：出席数、授業態度、作品の提出率など 20 点			
・技能点：作品やアイデアスケッチから授業理解や表現力を評価 80 点			

	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	◎「光で楽しむ半立体作品」 : 切り抜いた画用紙を重ね、	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主題に応じた教材の使い方を工夫し発想力や活用力、表現力を育む。</li> <li>・紙の重なりと陰影の効果を考えながら表現し計画力や構想力を高める。</li> <li>・試行錯誤しながらイメージを実現するための思考力や判断力を高める。</li> <li>・生徒間で表現意図や効果を共有し造形的な知的活動を楽しみ、共感性や協調性、人間関係力を育成する。</li> </ul>
	2	画面に凹凸のある表現をする	
	3		
<b>【課題・提出物】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作品</li> <li>・ 課題プリント(任意)</li> </ul>			
<b>【3学期の評価方法】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平常点：出席数、授業態度、作品の提出率など 20点</li> <li>・ 技能点：作品(発想・構想 各40点)・(創造的技能 各40点) 80点</li> </ul>			
<b>【年間の学習状況の評価方法】</b> 生徒の状況をふまえ、作品を通して総合的に評価する。			

### 3. 評価の観点、内容及び評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 画材の特性を効果的に利用することができる。</li> <li>・ 各単元で習得した内容を活用、応用できる。</li> </ul>	表現活動の観察 作品(習作含む)
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題を的確に捉え、問題解決を図ることができる。</li> <li>・ 情報を整理し、表現の為のアイデアを練ることができる。</li> </ul>	資料プリント等での スケッチ、構成 学習活動の観察
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 提示された課題に興味をもち、積極性や集中力を発して表現の可能性を追求することができる。</li> <li>・ 表現方法を工夫しながら丁寧に制作できる。</li> <li>・ 表現活動を通じて、周囲の状況に配慮しながら協力して制作できる。</li> <li>・ 完成度を高めながら造形の美しさや創造の楽しさを自分なりに発見し、そのよさを味わえる。</li> <li>・ 表現体験と鑑賞活動を通して自己評価できる。</li> </ul>	学習活動の観察 発言

### 4. 学習サポート (事前・事後学習等について)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の状況や必要に応じて、準備物や予習のための資料プリントを配布する。</li> <li>・ 課外で「放課後アートタイム」を設け、生徒が主体的に学習補完できるようにする。</li> </ul>
---

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
書道 I	2	1 学年書道選択者	全クラス

教科書名 書 I ( 光村図書 )

### 1 科目目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広くかかわる資質・能力を次のとおり育成する。

- (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付ける。
- (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫し、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉える。
- (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

### 2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	書写から書道へ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書写と書道の学習の違いを確認する。</li> <li>・芸術科書道への関心・意欲を高め、書に対する感性を豊かにし、書に親しむ情操を養う。</li> <li>・用具用材の扱い方を学ぶ。</li> <li>・基本点画の用筆・運筆を身に付ける。</li> <li>・古典と現代の書を学び、それぞれの書の特徴を捉え臨書する。</li> </ul>
	5	漢字の変遷と様々な書体	
	6	文房四宝	
	7	唐の四大家に学ぶ楷書の基本 孔子廟堂碑 九成宮醴泉銘 雁塔聖教序 顔氏家廟碑	
【課題・提出物】鑑賞プリント 作品提出			
【1学期の評価方法】作品提出による実技点80%、及び平常点20%			
	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	蘭亭序	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行書の基本的特徴を学ぶ。</li> <li>・王羲之や三筆・三跡等の歴史や作品が書かれた背景を理解する。</li> <li>・蘭亭序を学び模範的な行書を臨書する。</li> <li>・風信帖に学び古典筆跡の鑑賞と理解を深める。</li> <li>・仮名の成立までの過程を理解する。</li> <li>・仮名文字の線質、書風、用筆等を理解し身</li> </ul>
	10	風信帖 三筆・三跡	
	11	仮名の筆使い 平仮名	

	12	変体仮名 蓬莱切 継色紙 古筆を生かした創作 はがき・手紙の書き方	に付ける。 ・平仮名、変体仮名の字源を意識し書く。 ・古筆を鑑賞し美しさを味わう。 ・散らし書きの構成を学び作品を制作する。 ・正しいはがき等の書き方を身に付ける。
	【課題・提出物】鑑賞プリント 作品提出		
	【2学期の評価方法】作品提出による実技点80%、及び平常点20%		
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	漢字仮名交じりの書	・用具や表現法の効果を理解する。
	2	心に響く言葉を書く	・学んだことを用いて書きたい思いを言葉にして
	3		作品として仕上げ創造力や表現力を育成する。 ・他者の作品を鑑賞し感受性を磨く。
【課題・提出物】鑑賞プリント 作品提出			
【3学期の評価方法】作品提出による実技点80%、及び平常点20%			
【年間の学習状況の評価方法】 実技点80%、及び平常点20% ※各定期試験は実施しない。 学年末評価は、3学期評価を算出の上、各学期の平均となる。			

### 3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典に基づく基本的な点画や線質の表し方を理解し、その用筆・運筆の技法を習得できる。</li> <li>・古典作品の書家や時代背景を理解できる。</li> </ul>	学習活動の観察 作品
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的や用途の即した形式、意図に基づく表現を工夫できる。</li> <li>・他者の作品を鑑賞し表現の工夫点や自己との相違点を見つけ、作品に生かすことができる。</li> </ul>	授業内プリント 学習活動の観察
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道具を適切に扱うことができる。</li> <li>・集中して取り組み、技術の向上に努めることができる。</li> <li>・話し合いに積極的に参加できる。</li> <li>・古典作品や生徒同士の作品に興味と関心をもって鑑賞できる。</li> </ul>	授業内プリント 学習活動の観察

### 4 学習サポート（事前・事後学習等について）

授業内・授業後に添削指導を行う。

科目	単位数	対象学年	対象クラス
英語コミュニケーションⅠ	5	1	Ⅱコース

教科書名 BLUE MARBLE English Communication I ( 数研出版 )  
副教材名 BLUE MARBLE English Communication I ナビゲーションノート ( 数研出版 )  
BLUE MARBLE English Communication I ワークブック ( 数研出版 )  
英単語ターゲット 1400 ( 旺文社 )  
Pair & Share <リピトレ版> ( いいずな書店 )  
大学入試4 技能試験対応 基礎力養成コア表現トレーニング ( 旺文社 )  
高校英語入門 Hop! Stage ( いいずな書店 )

### 1 科目目標

「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」の五つの領域を、統合的な言語活動を通してコミュニケーションを図るために必要な発信能力を育成する。また、資料を読み情報や考えを的確に理解し、自分の意見を持ち、相手に伝えるコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。

### 2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	<b>高校英語入門 Hop! Stage</b> Part 1 英語の品詞 Part 2 英語の語順	・高校英語に向けて、英語の基本的な知識を確認する。
	5	<b>Lesson 1</b> <b>Friendships in the Digital Age</b> デジタル時代における友だち作り  <b>Lesson 2</b> <b>Expos: Past, Present, and Future</b> 万博における日本の関わりと、未来の万博の役割  <b>【Pair&amp;Share I】</b> Lesson1~2 <b>【基礎力養成コア表現トレーニング】</b> Lesson1~8	・英語の語順（文型）を理解する。 ・フレーズリーディングの手法を身につける。 ・友達作りとインターネットの使用に関する意見を伝える。  ・文のアクセント・イントネーションを意識して音読できるようになる。 ・英語の時制（現在、過去、未来）を理解する。 ・万博の利点を英語で話す。  ・英語の時制を適切に用いて、英文を書いたり、話したりできるようになる。 ・There is 構文を用いて英文を書く。 ・周囲の状況を英語を用いて説明する。



	6	<b>Lesson 3</b> <b>The Fascinating World of a Professional Storyteller</b> アメリカ人女性を魅了した日本の伝統話芸の世界	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語のリズムで音読できるようになる。</li> <li>・英語の助動詞を理解する。</li> <li>・本文の内容に関して自分の意見を述べる。</li> </ul>
	7	<b>Lesson 4</b> <b>Changing Behavior in Unique Ways</b> 人々の行動をよい方向に変えるための「仕掛け」について考える。  <b>【Pair&amp;Share I】</b> Lesson3~6 <b>【基礎力養成コア表現トレーニング】</b> Lesson9~17	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弱く発音される語に留意して音読できるようになる。</li> <li>・使役動詞を用いた表現を学習する。</li> <li>・準動詞（不定詞、動名詞、分詞）を理解する。</li> <li>・学校生活について英語で書く。</li> <li>・自分の趣味を英語で伝える。</li> <li>・予定を表す表現を理解する。</li> </ul>
	<b>【課題・提出物】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークブック</li> <li>・単語テスト</li> </ul>		
	<b>【1学期の評価方法】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験素点：80%（中間試験及び期末試験）</li> <li>・平常点：20%（課題提出，単語テスト，授業態度）</li> </ul>		
	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	<b>Lesson 5</b> <b>A Journey to Peace</b> ルワンダ大虐殺を生き延びた1人の女性の物語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特殊語尾(接尾辞)のアクセントに留意して音読できるようになる。</li> <li>・知覚動詞の用法を理解する。</li> <li>・Louiseの経験を英語で伝えることができる。</li> </ul>
	10	<b>Lesson 6</b> <b>Humans Evolve with Measurements</b> 「測る」という行為を通して人類の進化の歴史をひも解く  <b>【Pair&amp;Share I】</b> Lesson7~10 <b>【基礎力養成コア表現トレーニング】</b> Lesson18~23	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係代名詞の用法を理解する。</li> <li>・関係代名詞が含まれた文を正しく解釈する。</li> <li>・学校生活について英語で話す。</li> <li>・相手に質問をする表現を使うことができるようになる。</li> <li>・勧誘や提案を表す表現を理解する。</li> </ul>

	11	<b>Lesson 7</b> <b>Bio-logging: Discovering Animals' Secrets</b> 野生動物の秘密に迫る「バイオロギング」とは	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音の連結を意識して音読できるようになる。</li> <li>・関係副詞の使い方を学習する。</li> <li>・社会における動物の扱いに関して自分の意見を英語で話すことができる。</li> </ul>
	12	<b>Lesson 8</b> <b>What to Do with Too Many Tourists</b> 「オーバーツーリズム」とは何か、そしてその解決策を考える  <b>【Pair&amp;Share I】</b> Lesson11~14 <b>【基礎力養成コア表現トレーニング】</b> Lesson24~29	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音の脱落を意識して音読できるようになる。</li> <li>・仮定法過去 / 仮定法過去完了の表現を学習する。</li> <li>・日本におけるオーバーツーリズムに関する意見を英語で書く。</li> <li>・放課後の過ごし方を英語で説明する。</li> <li>・賛否の表現方法を学ぶ。</li> <li>・不定詞や動名詞を用いて、英語を話す。</li> </ul>
<b>【課題・提出物】</b> ・夏期休業期間中の課題 ・ワークブック ・単語テスト			
<b>【2学期の評価方法】</b> ・定期試験素点：80%（中間試験及び期末試験） ・平常点：20%（課題提出，単語テスト，授業態度）			
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	<b>Lesson 9</b> <b>Surviving in the Information Age</b> 玉石混交の膨大な情報から真実にたどり着くために何をすべきか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでに学んだことを生かし，音読する。</li> <li>・目的を述べる表現方法を学習する。</li> <li>・本文の読解を通して，多くの情報から真実を見つける方法を学ぶ。</li> </ul>
	2	<b>Lesson 10</b> <b>The Spirit of Zen: Less Is More</b> 「禅」の精神とは何か，そして現代の世界に与えた影響とは	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでに学んだことを生かし，英語の読解を自分で行う。</li> <li>・比較する表現方法を学習する。</li> <li>・本文の内容を英語で話すことができるようになる。</li> </ul>
	3	<b>【Pair&amp;Share I】</b> Lesson15~20 <b>【基礎力養成コア表現トレーニング】</b> Lesson30~43	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家での過ごし方を英語で紹介する。</li> <li>・数量を表す表現を用いて，英文を書く。</li> <li>・第5文型を用いて，変化を説明できるようになる。</li> </ul>

【課題・提出物】	・冬期休業中の課題 ・ワークブック ・単語テスト
【3学期の評価方法】	定期試験素点：80%（期末試験） 平常点：20%（課題提出，単語テスト，授業態度）
【年間の学習状況の評価方法】	定期試験素点：80%（5回実施される定期試験素点の平均点） 平常点：20%（各学期の平常点の平均点）

### 3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新出語や Key Phrases, Key Language の重要項目を理解している。</li> <li>・各 Part 本文の内容について，事実や自分の考えを整理し，新出語や Key Phrases, Key Language を用いて，本文の内容を再生したり，自分の意見を話す、あるいは書くことができる。</li> </ul>	定期試験 単語テスト
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文の内容を簡潔にまとめることができる。</li> <li>・本文に関連したテーマについて，学習した表現を用いて，自分の意見を話す、あるいは書くことができる。</li> <li>・聞き取った内容の概要を捉えるために，メモを書きとることができる。</li> </ul>	授業時の様子 課題
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中の音読活動等の定着活動に積極的に参加している。</li> <li>・発音，読解，文法に関する学習事項を反復練習し，課題に取り組む。</li> <li>・各単元のテーマに関して，自分の意見を表現しようとしている。</li> </ul>	授業時の様子 課題

### 4 学習サポート（事前・事後学習等について）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業には必ず，事前に音読練習をして参加しましょう。音読をしながら、発音がわからない単語，初めて見る単語や表現を明確にした上で授業に臨むことで，授業の理解度が上がります。授業後も，音読に取り組むことが大事です。音読は，リスニング力の向上や英語の理解に繋がります。</li> <li>・復習に重点を置き，授業実施日に家庭学習として，音読に加えて，単語の確認や内容理解等に取り組みましょう。特に，教科書の内容理解を徹底的に行い，ワークブック等で定着しているかを確認し，定期テストに臨み，入試の基礎を作り上げましょう。分からないところがあれば，必ず質問をしてください。</li> <li>・英語ができるようになるには，単語力が不可欠です。単語の学習は必ず毎日行いましょう。単語を覚える時は，必ず発音と一緒に覚えること。単語を覚える時も実際に声に出して発音することが大事です。</li> </ul>
--

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
論理・表現 I	2	1	IIコース

教科書名 Vision Quest English Logic and Expression I Advanced ( 啓林館 )

副教材名 Vision Quest New English Grammar 47 ( 啓林館 )

Vision Quest 総合英語 ( 啓林館 )

高校英語入門 Hop! Stage ( いいずな書店 )

## 1 科目目標

「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」を中心とした統合的な言語活動を通して、コミュニケーションを図るために必要な発信能力を育成するとともに、論理の構成や展開を考察することで、情報や考えなどを論理的に工夫しながら伝える能力を育成する。

## 2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	<p>&lt;高校英語入門 Hop! Stage&gt; Part 3 英文法の基礎</p> <p>&lt; Vision Quest English Logic and Expression I Advanced &gt; Lesson1 I want to introduce my new friend.</p> <p>Lesson2 How about joining our group?</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校英語を学ぶ上で必須となる中学校での英文法の知識を再確認する。</li> <li>・英語の文の種類を理解する。</li> <li>・単文、重文、複文を用いて英語を書けるようになる。</li> <li>・応答や理由を述べる表現を用いて、英語で話す。</li> </ul>
	5	<p>Lesson3 I'm planning a day trip this weekend.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語の5種類の文型を学ぶ。</li> <li>・第1～第5文型の正しい英文を書けるようになる。</li> <li>・自動詞と他動詞の違いを理解する。</li> <li>・賛成・反対を述べる表現を用いながら、パートナーと英語で会話をする。</li> <li>・英語の時制(現在・過去・未来)を理解し、適切な時制を用いて英文を書く。</li> <li>・適切な時制を用いて、予定についてパートナーと英語で会話をする。</li> <li>・週末の予定に関する英文を書く。</li> </ul>

	6	Lesson4 Have you ever tried it before?	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在完了，過去完了の用法を理解する。</li> <li>・完了形と過去形の違いを理解する。</li> <li>・完了形を適切に用いて，自分が訪れた場所の紹介を英語で書く。</li> </ul>
	7	Lesson5 What do you want to do after school?	<ul style="list-style-type: none"> <li>・助動詞の用法及び意味を理解する。</li> <li>・回想・自省の表現を用いて，英文を書く。</li> <li>・助動詞を適切に用いて，学校や家庭のルールの説明を英語でする。</li> </ul>
<b>【課題・提出物】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業用ノート</li> <li>・小テスト</li> <li>・その他、授業中に課すもの</li> </ul>			
<b>【1学期の評価方法】</b> 定期試験素点：80%（中間試験及び期末試験） 平 常 点 ：20%（課題提出，小テスト，授業態度）			
	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	Lesson6 Did you hear about the new shop?	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受動態の用法を理解する。</li> <li>・原因を表す表現を用いて，英文を書く。</li> <li>・受動態を適切に用いて，パートナーにお気に入りの本を紹介する。</li> </ul>
	10	Lesson7 I'm happy to have you with us.	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不定詞の基本用法を徹底的に理解する。</li> <li>・使役動詞及び知覚動詞の用法を理解する。</li> <li>・不定詞を用いて，自分の将来の夢について英文を書く。</li> </ul>
	11	Lesson8 What sport do you like playing?	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動名詞の用法を理解する。</li> <li>・動名詞と不定詞の違いを理解し，それらを適切に用いて英文を書く。</li> <li>・好きなスポーツについて、パートナーと英語で話す。</li> </ul>
	12	Lesson9 Digital media has come a long way.	<ul style="list-style-type: none"> <li>・形容詞として用いる分詞の用法を理解する。</li> <li>・分詞構文を用いて，英文を書く。</li> <li>・付帯状況を表す表現を用いて，英文を書く。</li> </ul>

	<b>【課題・提出物】</b> ・夏期休業中の課題 ・授業用ノート ・小テスト ・その他，授業中に課すもの		
	<b>【2学期の評価方法】</b> 定期試験素点：80%（中間試験及び期末試験） 平常点：20%（課題提出，小テスト，授業態度）		
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	Lesson10 That's why I decided to go back.	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係詞の基本用法を理解する。</li> <li>関係詞を適切に用いて英文を書く。</li> <li>関係代名詞 what を用いて，自分が必要なものをパートナーに紹介する。</li> </ul>
	2	Lesson11 Which do you prefer, cheaper beans or expensive ones?	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な比較表現を理解し，それらを用いて英文を書く。</li> <li>原級や比較級を用いて，最上級の意味を表す英文を書く。</li> <li>提案する表現を用いながら，パートナーと会話をする。</li> </ul>
	3	Lesson12 If I were you, I'd see it as a positive.	<ul style="list-style-type: none"> <li>仮定法の文の形を理解する。</li> <li>仮定法を用いた表現を利用し，英文を書く。</li> <li>自分の願望について，仮定法を用いながらパートナーと話す。</li> </ul>
	<b>【課題・提出物】</b> ・冬期休業期間中の課題 ・授業用ノート ・小テスト ・その他，授業中に課すもの		
	<b>【3学期の評価方法】</b> 定期試験素点：80%（期末試験） 平常点：20%（課題提出，小テスト，授業態度）		
	<b>【年間の学習状況の評価方法】</b> 定期試験素点：80%（5回実施される定期試験素点の平均点） 平常点：20%（各学期の平常点の平均点）		

### 3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語の働きや役割などを理解し、外国語の音声、語彙・表現、文法の知識を身に付けている。</li> <li>・外国語の音声、語彙・表現、文法を、4技能（聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと）を運用できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験</li> <li>・小テスト</li> <li>・その他の課題</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面・目的・状況等に応じて、適切な表現を用いて、英語を話したり書いたりすることができる。</li> <li>・外国語で聞いたり読んだりしたことなどを活用して、情報や考え等を適切に伝え合っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時の様子</li> <li>・定期テスト</li> </ul>
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。</li> <li>・外国語を用いて、自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</li> <li>・聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、学んだことを活かし、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時の様子</li> <li>・定期試験</li> <li>・小テスト</li> </ul>

### 4 学習サポート（事前・事後学習等について）

高校で学ぶべき項目の9割が1年生で学ぶ内容です。間違いを恐れずに積極的に授業に参加しましょう。1つ1つの単元の基本事項を徹底的に理解し、テキストを用いながら実際に使えるように繰り返し練習しましょう。実際に声を出し発音し、また実際に自らの手で書くことも大切です。分からないことがあれば、必ず質問をしてください。英語を使う上での基礎をしっかりと身につけましょう。

科目	単位数	対象学年	対象クラス
総合的な探究の時間	1	1 学年	全

教材名 「インターン (INTERN)」 (株)教育と探求社  
 NOLTY スコラ探究プログラム「基本編」 (株) NOLTY プランナーズ

### 1 科目目標

**学習指導要領における目標**

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成する。

(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解する。

(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。

(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

日本大学および  
 日本大学東北高等学校の教育目標

**『自主創造』**

自主的に学び、考え、広く世界的視野を持つ新しい自分、心豊かな自分を創造すること。

※日本大学マインド

**多様な価値を受容し、自己の立場・役割を認識する力**

異文化及び異分野の多様な価値を受容し、地域社会、日本及び世界の中での自己の立ち位置や役割を認識し、説明することができる。

**社会に貢献する姿勢**

社会に貢献する姿勢を持ち続けることができる。

踏まえて

踏まえて

**本校において定める「総合的な探究の時間」の目標**

探究が自律的に行なわれるような学習環境の整備に努め、他者と協働的に取り組む中で、新たな価値を見つけ、自己の生き方や社会・職業などについて考え、発展的に自己の進路実現に向かっていくような学習展開がなされることを目標とする。

**「総合的な探究の時間」において育てようとする資質や能力及び態度**

- 生徒自身が、これまでの学びを相互に関連付けながら課題を発見し、解決する能力
- 自律的・主体的に学習活動に取り組むことができる資質
- 他者と協働して課題に取り組む態度
- 自己の生き方や社会の諸問題について考え、発展的に自身の進路実現に向かっていく態度

2 各学年の目標および探究するテーマ

1 年次：「自己理解とキャリア探究」 働く意義について考える。探究の基礎を学ぶ。  
 職業や自己の進路、キャリアに関するテーマ

2 年次：「自己啓発」 自ら課題を発見・追究・表現・解決する → ロハス探究

3 年次：「自己実現」 実体験を通じて社会に学び、社会への共生を図る。

相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的にはたらくようにする。

他教科で身に付けた資質・能力



### 3 学習計画及び評価方法

学期	日	回	教材	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4/25	1	【INTERN】	オリエンテーション	ワークを通して自分の仕事に対する考えに目を向け将来へのイメージを広げる。
	5/2	2		自分の仕事意識を知る	インターンする企業を決め、アンケート調査を通してその企業や事業についての理解を深める。
	5/16	3		インターンの募集を見る	企業が社会に対してどのような価値を生み出しているのか、体験的に主体的に探求する。
	5/30	4		仕事を始める	
	6/6	5		調査結果を報告する	
	6/13	6		課題を確認する	
	6/20	7		課題に取り組む	
2 学 期	9/5	8	【INTERN】	プレゼンテーションを行う	活動を振り返り、一人ひとりが「働く」ことについて自分なりに考える。
	9/12	9		合同研修を受ける	
	9/19	10		最終レポート	
【前期の評価方法】				・活動に臨む意欲と態度 ・ワークブックへの取り組み ・プレゼン資料、発表および聞く態度 ・生徒自身による自己評価	
2 学 期	9/26	1	【探究プログラム】	イントロ・興味関心ワーク 1	探究とはなにか、なぜ行うかを考える。
	10/17	2		興味関心ワーク 2	身の回りのものに目を向け、疑問を見つけ、問いを立てる練習をする。
	10/24	3		興味関心ワーク 3	
	10/31	4		課題設定ワーク 1	
	11/7	5		課題の設定	グループで探究する「問い」を立てる
	11/16	6		情報収集ワーク 1	情報収集の方法を学ぶ。
	11/21	7		情報収集ワーク 2	情報を収集する。
	11/28	8		整理分析ワーク	整理・分析の方法について学ぶ。
	12/12	9		調査・分析	グループで問いの解明のために調査・分析を行う。
	12/19	10		調査・分析	
3 学 期	1/30	11		まとめ表現ワーク	発表のポイントを知る
	2/6	12		まとめ・表現	発表のための資料を作成する
	2/13			まとめ・表現	
	2/20			発表	発表し合い、疑問を気づきを得る。
	2/27			発表・振り返り	探究活動を振り返り、次の課題を見つける。
【後期の評価方法】				・活動に臨む意欲と態度 ・ワークブックへの取り組み ・プレゼン資料、発表および聞く態度 ・生徒自身による自己評価	

#### 4-(1) 評価の観点、内容及び評価方法

成果物の出来栄など、活動の結果だけを評価するのではなく、過程を評価する。

	評価の観点及び内容	評価方法
知識・技能	探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識および技能を身に付け、課題に関する概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。	プレゼンテーションやポスター発表などの表現による評価。
思考・判断・表現	実社会や実生活と自己との関わりから問いを見出し、自ら問いを立て、情報を集め、整理分析して、	討論や質疑の様子などの言語活動の記録によ

	まとめ・発表している。	る評価。
主体的に学習に取り組む態度	探究に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。	学習や活動の状況などの観察記録による評価。 論文・報告書、レポート、ノート、作品などの制作物による評価。 評価カードや学習記録などによる生徒の自己評価や相互評価。

#### 4-(2) 評価基準（ルーブリック）

	十分満足できる(A)	概ね満足できる(B)	努力を要する(C)
知識・技能 知識・技能	必要な知識・技能を書籍や資料等から得て、既得の知識と関連付けて理解することができる。	必要な知識・技能を書籍や資料等から得て、ある程度理解することができる。	必要な知識・技能を書籍や資料等から得ることができない。得た知識・技能の理解ができない。
課題を発見する力 思考・判断	自分の興味・関心と社会問題を関連付けて、課題を発見することができる。	自分の興味・関心から、または社会問題から課題を発見することができる。	自分の興味・関心、社会について理解が浅く、課題を発見できない。
課題を解決する力 思考・判断	データや情報を適切に収集し、整理・分析することができる。 筋道を立て、論理的な考えを構築できる。	データや情報を適切に収集し、整理・分析をする努力ができる。 根拠や論理性に欠ける部分はあるが、自分なりの考えを提示できる。	データ・情報を適切に収集・分析することができない。 データ・情報に基づいた考えを思考することができない。
考えを他者に伝えることができる力 表現	論理的に筋道を立て、分かりやすく、工夫のある発表をすることができる。	論理的に筋道を立て、分かりやすく発表しようとする努力ができる。	発表するための準備が不十分である。
自律的・主体的に学習に取り組む力 主体的に学習に取り組む態度	課題の解決に向けて自ら粘り強く取り組むことができる。	課題の解決に向けて意欲的に継続して取り組むことができる。	活動に意欲的に取り組むことができない。
他者と協働する力 主体的に学習に取り組む態度	班員と目標を共有し、価値観や意見の異なる人の意見も尊重し協力して活動できる。	班員と協力して活動できる。	班員と協力する姿勢が見られない。